

令和7年度 後期

開講科目の講義要目
特別聴講生用



大月市立大月短期大学

令和7年度後期 講義要目 特別聴講生用 目次

情報処理応用演習	1	人間関係論◆	31
日本文学概説	2	企業法務論	32
倫理学	3	日本文化講義B	33
世界史	4	アジア文化講義B	34
生物学	5	国際関係論B	35
数学	6	社会学B	36
統計学Ⅱ	7	教育学B	37
心理学B	8		
文化人類学	9		
地域データ分析論◆	10		
地域文化遺産論◆	11		
ミクロ経済学B	12		
経済学説史A	13		
計量経済学	14		
社会経済学	15		
日本経済史B	16		
西洋経済史	17		
日本経済論	18		
日本企業論	19		
金融論B	20		
国際経済学	21		
アジア経済論	22		
財政学	23		
経済政策	24		
環境経済学	25		
農業経済学◆	26		
地域福祉論	27		
地域金融論◆	28		
労働と法◆	29		
行政学	30		

- M E M O -

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
情報処理応用演習 (Word・Excel の応用技術)	C1・C2 深澤 克朗	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準 (ディプロマ・ポリシー) との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している (導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

ワープロソフト (Word) では、実践的な長文を疑似的に作成する。そこで、実践的な機能やアウトライン機能などの便利な機能を学ぶ。表計算ソフト (Excel) では身近な情報をもとに、各種関数などを利用した計算やデータ操作による表作成を行う。また統計処理の活用方法を理解した上で、データ分析や加工ができるようにする。さらにデータベース機能やフォーム機能を用いてアプリケーションを作ることを学ぶ。最後の方ではマクロ機能やVBAを使い、プログラミングを体験するものである。本講座においては、より実践的な使い方を習得することを目的とする。

(3) 到達目標

- ①ワープロソフト (Word) のより実践的な利用技術を習得する。
- ②表計算ソフト (Excel) を用いてデータ分析の方法を学ぶ。
- ③表計算ソフト (Excel) の応用的な機能を学び、アプリケーションを作成できる技術を習得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ワープロソフト (1)	文書作成の基礎、表作成
2	ワープロソフト (2)	段組み、ページ区切り、縦書き文書
3	ワープロソフト (3)	応用的機能 (ヘッダー、フッターなど)
4	ワープロソフト (4)	アウトライン機能の操作
5	ワープロソフト (5)	アウトライン機能による論文作成
6	表計算ソフト (1)	基本的な表の作成
7	表計算ソフト (2)	関数利用 (1) 文字列処理
8	表計算ソフト (3)	関数利用 (2) 統計関数の利用
9	表計算ソフト (4)	関数利用 (3) データベース関数
10	表計算ソフト (5)	関数利用 (4) 財務関数
11	表計算ソフト (6)	データ分析の手法
12	表計算ソフト (7)	フォーム機能
13	マクロプログラミング (1)	VBA プログラミング (1) 基本機能
14	マクロプログラミング (2)	VBA プログラミング (2) 繰り返し構造
15	マクロプログラミング (3)	VBA プログラミング (3) 分岐構造

(5) 授業の進め方と方法 (授業時間外の学習)

毎回の授業資料に従い、演習形式で行う。授業時間内で資料内容を理解し、課題を作成して提出する。提出課題に関しては、各自が実際のデータなどを検索・利用し、授業で学んだ機能を使って独自に作り上げることを目指す。ソフトウェアは道具であるので、その道具の様々な機能を理解して、内容に意味があるものを作り出す訓練を行う。卒業論文の作成などで有効に使えるようになることを望むものである。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業の区切りに提出する課題 (60%)、
- ②最終課題 (40%)

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	配布資料			
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目 (他の科目との前後のつながり)

情報処理基礎演習

(9) オフィスアワー・その他

質問等は、授業の前後や teams にて対応します。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本文学概説（日本近現代文学を学ぶ）	文学	渡邊 浩史	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

「文学とは何か」——本講義ではこのような問いについて、明治から平成にかけての近現代小説や近代詩を扱っていくなかで検討し、文学作品の読み方について学んでもらいたいと考える。具体的には、近代小説及び近代詩のなかでも、何事かに向け、情熱や悲哀をかたむける登場人物を描いた作品に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察していく。さらにこの授業では、「文学」が、人間が社会生活を送っていく際に突きつけられる矛盾や不条理に対し、どのように対処すべきなのかという「選択」する力を身につける学問であることも理解してもらうことも目的である。

(3) 到達目標

- ① 「文学とは何か」を理解し、文学作品の読み方について学んでいく。
- ② それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題をとらえ、個々の問題意識を深め、理解できるようになる。
- ③ 文学作品の読解を通して、将来起こる自身の問題についての「選択」する力を身につける。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	はじめに	文学を学びたい人のために
2	文学とは何か①	「文学」と「国語」の違いとは何か？
3	文学とは何か②	「文学」とは「人間学」である
4	近代文学史（1）	明治の日本文学 ——写実主義／擬古典主義／浪漫主義／自然主義などの文学——
5	近代小説を読む（1）	田山花袋「蒲団」
6	近代文学史（2）	明治の日本文学 ——反自然主義／耽美派などの文学——
7	近代小説を読む（2）	谷崎潤一郎「刺青」
8	近代文学史（3）	大正の日本文学 ——白樺派／新思潮派などの文学——
9	近代小説を読む（3）	芥川竜之介「西郷隆盛」
10	近代文学史（4）	昭和・平成の日本文学 ——プロレタリア文学／モダニズム文学／戦時下／戦後の文学——
11	近代小説を読む（5）	江戸川乱歩「人間椅子」
12	近代小説を読む（6）	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」
13	近代小説を読む（7）	文学史のまとめ（確認テスト）
14	近代小説を読む（8）	太宰治「斜陽」
15	近代詩を読む／まとめ	中原中也・草野心平・茨木のり子などの詩／授業のまとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメ使用）が、複数回にわたりペアまたはグループ活動を行う。授業では特定の教科書は使用しないが、授業内で配布する文学史に関するプリントや文学作品については、時間外学習として読んでおくことが望ましい。授業後には毎回コメントシートを使用し、近代文学史に関しての確認テストを1度行なう予定でいる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業内課題（70%）、② 定期試験に代わるレポート（30%）の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーや Teams のチャット等でも受け付ける。授業の進度・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性はある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
倫理学（倫理学の基本的理論の紹介と事例による考察）	永野 潤	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

倫理学は、道徳哲学とも言われるが、世間で通用している善や道徳をそのまま受容するのではなく、善や道徳について哲学的に考察する学問である。この授業では、そうした倫理学の基本的考え方について講義するが、同時に、障害、安楽死、優生学、ジェンダーなどの具体的問題についてともに考えながら学ぶ。講義中に配布するプリントに沿って授業を進める。

マンガや映画などを題材に、かたくなに授業をめざす。

実際に自分の頭で考えながら授業に参加してほしい。

(3) 到達目標

- ① さまざまな社会問題について説明できる。
- ② 偏見や先入観にとらわれず思考できる。
- ③ 創造的に思考できる。
- ④ 人権について説明できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	はじめに	倫理学とは何か
2	自己決定の問題1	バイオエシックスと自己決定
3	自己決定の問題2	パートナーリズムの問題点
4	義務論と目的論1	功利主義について
5	義務論と目的論2	カントの倫理学について
6	創造的に考える	倫理的ジレンマの批判
7	障害と社会の問題1	医学モデルと社会モデル
8	障害と社会の問題2	障害者の権利獲得運動
9	安楽死・尊厳死の問題1	安楽死と自己決定
10	安楽死・尊厳死の問題2	社会で支えるという選択肢
11	安楽死・尊厳死の問題3	優生学の過去と現在
12	ジェンダーの問題1	自己決定とジェンダー
13	ジェンダーの問題2	ジェンダーと教育
14	格差と貧困の問題2	生存権と生活保護
15	格差と貧困の問題2	労働者の権利の問題

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

・パワーポイント、視聴覚メディアを使用して講義する。Teamsで指示するリンクからあらかじめ穴埋め形式のプリントをダウンロードしておくこと。毎回の授業で空欄の用語を埋めて行くことで授業への集中力を高め、内容の理解を深める。

・次回授業までに Teams(microsoft forms)を使用して授業についてのコメントを記入してもらい、フィードバックとして、次回授業の最初に主だったコメントを匿名で紹介し教員からコメントを返す。プリントの該当箇所、授業で指定する参考図書を読んで復習をすること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート（55%）、② 毎回の授業コメントおよび授業中の活動の提出（45%）の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。プリントを配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

哲学

(9) オフィスアワー・その他

授業終了後、または、Teams、メールなどで対応する。

進捗状況によるスケジュールの前後や変更がありえる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
世界史（アジアにおけるフロンティアとボーダー）	赤城 隆治	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

川端康成の小説「雪国」冒頭の「国境のトンネル」については、この熟語をどう読むかについて議論がある。読み方によって、イメージがかなり異なる。それは私たちが「ボーダー」が普遍的な「さかい」だと思っているからである。実は、この「ボーダー」はより新しい<さかい>についての概念である。①古代以来、「帝国」は皇帝という権力者が現れる前から、言葉として使われている。それはどういう様態を言っているのか、理解することが必要である。②近現代に入るところには、植民地支配の深化もあって、列強による「線引き」が行われた。それはどのような実態であったか、考察する。③そうしたボーダーの形成の上に、フロンティア的展開が交錯して、複雑な現代国際社会を生んできた。これらのポイントについて、解説し、受講者の理解に資する。

(3) 到達目標

①古代以来の「フロンティア」の実例について考える。②「ボーダー」の発生とその意味について歴史的に考える。③ボーダーとフロンティアは交錯しながら、近現代における<さかい>の問題を構成してきたことを認識する。これらのポイントについて、理解を深め、現代世界の諸問題を考える。これがこの科目を受講する人たちに求められることである。過去を学ぶだけが歴史学習ではないので、そのよい実例であると考え。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	都市国家の時代	城壁が<さかい>というのが、中国古代の初めにあった。その形態や構成について考察。
2	領域国家へ	都市国家の点在から、その連合という形にとどまらず、「広さ」をもつようになったわけ。
3	統一か分立か	秦や漢が「統一」王朝であるのに、その後の「三国」では何がどのように変化したのか。
4	ユーラシア大陸の諸地域	ユーラシアには多様な生活形態が存在し、生業も文化も異なる。その相互関係はどうか。
5	「海」と「洋」	日本海は東海ともいうが、いずれにしても「海」。「太平洋」は「太平洋海」ではないわけ。
6	宗教のフロンティア	仏教やイスラームはどのようにしてその信者を獲得できたのか、社会状況と重ねて考察。
7	「冊封」と「国書」	「日出処」「日没処」の出典は仏教書。そこではどういう意味であったのかが検討の原点。
8	近世から近代へ	アヘン戦争以降、「海の帝国」のグローバルな変化を引き起こす。それはどう帰結するか。
9	民主のフロンティア	「民主」は「専制」との対抗でとらえられるが、アジアでもった意味はどのようなものか。
10	列島における近代文化の形成	福沢諭吉や夏目漱石は文化活動を通じ、日本に「近代」を実現しつつ、その中で悩んだ。
11	半島と列島	アジアで唯一、植民地支配国となった近代日本と近隣地域はどのような関係であったのか。
12	列強と勢力圏	列強が植民地支配を深化させるとともに拡大し、相互に対立し、また妥協を図った経緯。
13	WWIIのフロント	欧州でも、太平洋でも軍事の前線は、大きく変化した。またそれが飢餓を将来した事実。
14	東西対立	イデオロギーは政治上ちがっていても、どちらにも市民・国民がいる。その生存権は？
15	現代のボーダーとフロンティア	ミサイルが頭上を飛んでいく今日、ボーダーには意味があるか、フロンティアの現状は？

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業にあたっては、まとめプリントを配布するが、それを読むことで終わるのではなく、図・表と合わせて検討して、理解を深める。それにはその場だけでなく、日頃における広い範囲の教養がものをいう。読書の意義は、自分を飾るためでもなく、趣味としての楽しみにおわるものではない。受講者には、広がり・深みのある視野でものごとを考える手立てとして、読書の成果を生かして欲しい。

(6) 成績評価の方法と基準

①期末における試験、もしくは、これに代わるレポート 80% ②授業内レポート 20%

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特定のものはない。			
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし。

(9) オフィスアワー・その他

授業の前後には時間の余裕を設定するので、質問などに対応する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
生物学（生命とは何か）	鈴木 憲仁	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

生物学は、自然科学の立場から「生命とは何か」を研究する学問分野である。原始生命の誕生から41億年、地球大変動の中で、気の遠くなるような進化の過程を経て生命は続いており、現在までに発見されている種だけで170万種以上に分化している。その生命を伝えている設計図であるDNAはどんな仕組みになっているのか。大腸菌、ミミズ、ヒト、植物などのDNAの基本構造は同じであることから生命の祖先は同じものなのか。最新科学で解明された神秘とも言える生命の見事なつくり、はたらきを理解し、生物への興味関心を掘り起こしていく。具体として私たちの身の回りに生育している植物の形・姿、生き方を通して、生命に対する親しみを喚起し、生命とは何かの解明に迫っていく。今日的課題として今私たちは新型コロナに翻弄されている。コロナウイルスとは何かを理解し、生命との関係を明らかにする。全体を通して、自然観察、実物、CGを駆使した映像等で効率良く、楽しく学んでいく。

(3) 到達目標

- ①野外観察や身近な具体物に触れながら、動植物の生き方を知ることにより生命への興味関心を高める。
- ②DNAのつくり、働きを知ることにより、日進月歩の生命科学の基礎を学び、興味関心を引き起こす。
- ③ウイルスとは何かを理解した上で、コロナウイルスとは何かを知り、コロナウイルスとヒトとの今後の関係を考えていく。
- ④生命のすばらしさ、神秘さに感動し、生命の尊さ、大切さが感じ取られ、全生命の上に君臨しているヒトの生き方を考える。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ウイルスとは？	真核生物、原核生物とウイルスの大きさ比較、ウイルスのつくり、ウイルスは生物か？
2	コロナウイルスの解明	コロナウイルスの構造と感染の仕方・予防・免疫、エイズウイルスなど
3	生物は進化しないと生きれない	地球の歴史と生命の誕生、地球大変動の中で生命は如何に生き延びたかその解明
4	学校周辺の自然観察	マツ、スギ、ヒノキ、カシノキ、ケヤキ、エノキなど具体物を知る
5	犬と猫では子はできない	種とはなにか、種の命名、生物の分類方法、生物の多様性と共通性
6	生命の生きる戦略	花のつくり、自家受粉と他家受粉、花と昆虫の関係、性とは何か
7	落葉樹は冬に何故葉を落とす	植物分布と環境要因、水平分布と垂直分布、日本・世界の植物
8	白神産地のブナは何故世界遺産	植物群落の移り変わり、陽樹と陰樹、極相林、住んでる地域の植物相に眼を向ける
9	日本列島は世界一の森林国	雨の多い日本列島、氷河と日本列島、世界一多種の国・美しい緑・紅葉の国、
10	私たちの細胞には原始細胞が住んでいる	生命の基本単位は細胞、細胞の構造、核・ミトコンドリアとATP・葉緑体
11	バクテリアもヒトも同じ祖先	DNAの二重らせん構造、ヌクレオシド、DNAの複製、4つの塩基
12	タンパク質の合成	タンパク質合成工場リボソーム、転写RNA、転移RNA、遺伝暗号表コドン
13	iPS細胞とは	細胞の初期化、ES細胞とは？、山中博士の研究とノーベル賞
14	ヒトの受精と誕生	生命誕生の驚異のメカニズム、子宮、卵巣、卵管、胎盤、卵子、精子、性について
15	生命とは何か、性は何故できたか？	自己保存の法則、系統保存の法則、進化の法則、進化は偶然の積み重ね、性の進化

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ①DVD映像、パワーポイント、授業内容のプリントを使いながら、学生たちと話し合いながら、質問をしたり、発表させたり、なるべく学生参加型の授業をしていく。
- ②自然観察や具体物（植物）などの実物を使い、比較したり、書いたりする。
- ③全ての授業にワークシートを用意し、授業内容を書きながら覚えるようにさせ、毎時間提出させ評価して次週にかえす。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業に対する真摯な取り組みを評価する。そのために毎時間ワークシートを作成させ提出させる。
- ②評価は毎時間のワークシート（14回×5点＝70点）と記述式の期末テスト（30点）とする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	プリント配布			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「地球科学」—地球の歴史と生物の進化。「文化人類学」—生物とは何かは人間とは何かと重なる

(9) オフィスアワー・その他

- ①授業の1時間前から授業の準備、学生との連絡・会話をする。
- ②授業の30分前は教室で授業準備・学生との話をする。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
数学（経済学のための数学）	上西 雄太	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

数学は、経済学の根幹を支える重要な学問であり、この道具なくして現代の経済・社会を分析し語ることはできない。一方で、数学は理系のもので経済を学ぶ学生に忌避されがちであるが、これは非常に勿体ない。数学を理解してこそ経済学を深く学ぶことができ、経済・社会の実態を解明し問題を解決する面白みにありつけるのだから。本講義は、その第一歩として経済学に関わる数学の入門的内容を扱う。ただし、実際に講義する内容は初回ガイダンスで皆さんの希望を聞いた上で決定する。下記の授業計画は『改訂版 経済学で出る数学』を教科書として、高校レベルから大学レベルの微分とその経済学への応用を学ぶものであるが、これはあくまで1つの案であり皆さんのレベルや希望に応じて内容を柔軟に変更する。より大学数学に寄った微分積分学の入門講義などにも変更可能である。経済学をより理解したい、あるいは純粋に数学を頑張りたいと思う学生は積極的に履修を検討して欲しい。

(3) 到達目標

- ① 経済学を学ぶ上で必要とされる数学の入門的な内容を理解する。
- ② 講義内の演習問題をこなすことで、基本的かつ重要な数学の問題を解けるようする。
- ③ 数学の抽象的な考え方・プロセスを学ぶことで、論理的思考力を高める。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義案を複数提示、履修者の希望調査、講義方針の決定
2	1次関数（1）	関数と変数、1次関数、逆関数
3	1次関数（2）	1次関数を利用した市場均衡の理論と余剰分析
4	2次関数	2次関数、平方完成、最大値と最小値
5	指数と対数（1）	指数法則、対数法則
6	指数と対数（2）、数列（1）	底の変換公式、等比数列、等差数列
7	数列（2）	数列の極限、ネイピア数、級数
8	数列（3）	漸化式（差分方程式）
9	1変数関数の微分（1）	微分の理解と導入、導関数の定義
10	1変数関数の微分（2）	n乗の微分、微分演算の線形性、合成関数の微分、逆関数の微分
11	1変数関数の微分（3）	積の微分、商の微分、指数・対数関数の微分
12	1変数関数の微分（4）	関数の増減と最大・最小、最大化・最小化問題
13	多変数関数の微分（1）	多変数関数について、偏導関数、偏微分、チェインルール
14	多変数関数の微分（2）	制約なしの最適化問題
15	多変数関数の微分（3）、まとめ	ラグランジュの未定乗数法、内容の復習と整理、定期試験について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書の内容に沿って板書で解説・補足を行うので、ノートをとって欲しい。また、基本的に毎講義の最後に演習問題を解く。この演習の積み重ねにより、理解が深まることを期待する。なお、予習については基本的に不要である。むしろ、授業内容を復習し同様の問題を解く練習を重ねて欲しい。復習用の練習問題も提供する予定である。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 80%
 - ② 授業内での課題 20%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	初回ガイダンス時、必要に応じて指示する。			
参考書	『改訂版 経済学で出る数学』	尾山大輔・安田洋祐 編著	日本評論社	2,310円
参考書	『数研講座シリーズ 大学教養 微分積分の基礎』	市原一裕 著	数研出版	2,750円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「ミクロ経済学」や「マクロ経済学」の理論を深く理解するための基礎的な数学を、本講義は提供する。また、「統計学Ⅰ/Ⅱ」の一部内容やその発展的な内容（数理統計学）、「計量経済学」なども関係しており、関連・応用分野は広い。

(9) オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
統計学Ⅱ（統計学によるデータの分析）	上西 雄太	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

統計学は、数字データを分析する上で基本的かつ有力なツールを提供する学問である。経済学のみならず社会科学の幅広い分野で、データを要約・説明したり、仮説を検証したり、将来を予測するために統計学が応用されており、この道具なしに専門的な学習や研究はできないと言っても過言ではない。逆に言うと、文系学生でも統計学を身に付けければ、専門性を高める上で強力な武器を手に入れたことになる。本講義は、統計学的なデータ分析の手法を習得したいと考える学生に向けた、統計学の入門講義である。後期は「統計学Ⅰ」の続きの内容として、推測統計のコアである「信頼区間の推定」や「仮説検定」について主に学ぶ。「計量経済学」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

(3) 到達目標

- ① 統計学の基本的な概念と手法を理解する。
- ② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について統計学的な手法を用い分析できるようにする。
- ③ 統計学の手法を用いて分析した結果を、各々の口で説明できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	統計学Ⅰの復習	確率変数、確率変数の変換、正規分布などの復習
3	中心極限定理（1）	2個の確率変数の和とその期待値・分散・標準偏差
4	中心極限定理（2）	n 個の確率変数の和とその期待値・分散・標準偏差
5	中心極限定理（3）	標本平均の分布、中心極限定理
6	信頼区間の推定（1）	点推定と区間推定について
7	信頼区間の推定（2）	中心極限定理による母平均の信頼区間の推定
8	信頼区間の推定（3）	信頼係数、信頼区間の推定の利用例、信頼区間の推定の条件と例外
9	信頼区間の推定（4）	t分布の導入、t分布表、Studentの定理
10	信頼区間の推定（5）	t分布と信頼区間の推定、利用例
11	演習	これまでの内容に関する総合演習
12	仮説検定（1）	仮説検定の具体例、仮説検定の流れ、統計学的な仮説の立て方と扱い
13	仮説検定（2）	第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、有意水準、検定統計量
14	仮説検定（3）	棄却域、検定の実施と結論、利用例
15	仮説検定（4）、まとめ	仮説検定に関する演習、内容の復習と整理、定期試験について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。基本は教科書に沿った講義レジュメを配布し、その解説・補足を行う。また、必要に応じて講義の最後に演習問題を解き、内容への理解を深める。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外演習には十分な時間を取って欲しい。なお、演習用の練習問題は教科書に豊富に載っている。また、教科書各章の付録にあるExcelによる分析の手引きを模倣すれば実践的な研究・レポートで役立つスキルが身につくので、復習の一環としてそれにも取り組んでほしい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 80%
 - ② 授業内外での課題 20%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	『統計学基礎講義 第3版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960円
参考書	『はじめての統計学』	鳥居泰彦 著	日本経済新聞出版	2,456円
参考書	『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』	阿部真人 著	ソシム	2,750円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

内容の続きを講義する関係上、前期に「統計学Ⅰ」を履修することを強く勧める。「計量経済学」では回帰分析に関して深掘りを行うので、実証研究やデータサイエンス関係の職業に関心のある学生は是非履修して欲しい。なお、本講義で身につく統計学的手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

(9) オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
心理学B (常識を問い直す)	川島 洋	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

「心理学A」では主に個人の心理に焦点を当てたが、「心理学B」では、「社会心理学」とその応用分野に焦点を当て、他者の存在(1対1の対人関係、集団、社会・文化)が、我々のこころ(思考・感情・行動)に対しどのような影響を与えているのかを学ぶ。そして、学んだ知識を自己理解、あるいは他者理解に役立てられるようになることを目標とする。

社会心理学を理解するために、社会心理学の基礎的用語、概念などを学び、身近な対人関係や現代日本社会における社会・文化事象について、発達障害・セクシュアリティの問題(男女格差、性的マイノリティー…)などの事例を通して、社会的価値観あるいは社会規範としての「常識」と「非常識」についての分析・考察を行う。また、社会心理学の応用分野である「恋愛心理学」「色彩心理学」「広告心理学」などを取り上げ、我々が日常生活を送る上で心理学がどのような関わりを持つかについて理解する。

(3) 到達目標

- ① 普段「当たり前」と思っている現代日本社会における様々な偏見や常識について再考し、自分自身のこころの成長、あるいは他者や現代社会について見直す手がかりにする。
- ② 異文化や世代による価値観の違いを知り、多様な視点で物事を捉えられるようにする。
- ③ 各自の生と性(セクシュアリティ)を尊重し、生き方を模索できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容、方針などの紹介、社会心理学とは。
2	自己と社会心理	社会心理学の4つのレベル、私的自己意識と公的自己意識。
3	こころの理論	発達障害について(自閉症スペクトラム・ADHD)。
4	恋愛の心理学I	対人行動と社会心理、対人魅力の心理的要因。
5	恋愛の心理学II	対人魅力の心理的要因(相手の行動特徴)。
6	恋愛の心理学III	対人魅力の心理的要因(非言語的身体運動)。
7	恋愛の心理学IV	対人魅力の心理的要因(自己の特性)。
8	ユング心理学	ユングによる性格分類、夢分析とは。
9	ジェンダーと社会心理I	ジェンダーギャップ(男女格差)。
10	ジェンダーと社会心理II	音楽史とジェンダーギャップ。
11	ジェンダーと社会心理III	セクシュアリティの構造。性的マイノリティーについて。
12	文化と社会心理I	場の理論、社会化と具民性。
13	文化と社会心理II	個人主義と集団主義、日本人の価値観。
14	流行と社会心理	流行の特徴、色のイメージと心理効果。広告の心理学。
15	マイノリティーと差別	マイノリティーと差別を描いた映画を鑑賞し考察を行う。

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

授業は講義形式で行う。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていくが、一方的に私が話すだけではなく、性格検査(心理テスト)の実習や、各自が個々の考えを表現する機会(コメントを書いてもらうなど)をできるだけ多く持ち、フィードバックとして性格検査、コメントに対する解説・回答を行う。また、「社会心理」という捉えづらい事柄を理解しやすくするために映像資料も多く活用する。特に事前に予習をする必要はないが、授業で学んだことを日常生活の中で活かしていただきたい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期テスト(70%)、② 授業貢献度/授業内の活動(20%)、③ 授業での課題(10%)の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	図説 社会心理学入門	齊藤 勇	誠信書房	3,024 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

「心理学B」を学ぶ上で「心理学A」はその基礎となる。また、「生涯発達論」は「心理学B」と関連する。心理学をより深く広く理解したいのであれば、心理学系科目である「心理学A」「生涯発達論」を履修することを勧める。

(9) オフィスアワー・その他

- ① 質問や相談については、授業の前後、あるいは Teams のチャット、メールにて随時対応する。
- ② 授業進度および内容については、心理学の新たなトピックがあった場合や、学生の理解度により変更される場合がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
文化人類学（世界の民族と異文化研究）	山内 健太郎	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

文化人類学の理論を紹介し、世界の民族と異文化について学習する。人類学理論の主な内容は、文化相対主義、機能主義、伝播論、構造主義などである。これらの理論と共に、文化における理解やその課題について講義する。また、講義内容に沿った映像を用いてより理解を深める。映像ではバブアニューギニア、南米アマゾン密林地帯の先住民族、中国ナシ族、日本などの生活を紹介する。文化人類学の理論と映像から「異文化とは何か」、「民族問題」、「多文化共生」などのテーマや、フィールドワークの事例をあげながら文化人類学からみた現代を学ぶ。

上記を通じて、文化人類学の基礎理論を学習し、文化人類学的な視座の獲得を目的とする。

(3) 到達目標

- ①文化摩擦の課題を学び思考する方法を習得する。
- ②文化人類学の古典から現在までの理論を学び、異文化理解について論じることができる。
- ③文化人類学的な視座を習得する。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	「当たり前」ってなんだろう？の学問
2	文化とは何か	文化の定義と議論について
3	文化人類学理論①	フィールドワークとトロブリアント諸島
4	家族と親族	わたしたちの家族を結ぶものは何か
5	文化人類学理論②	トロブリアント諸島の芋と家族
6	文化人類学理論③	「未開社会」の幻想（機能主義Ⅰ）
7	文化人類学理論④	クラ交換（機能主義Ⅱ）
8	文化人類学理論⑤	贈与と互酬性
9	イゾラド	南米アマゾン密林地帯の先住民族
10	文化人類学理論⑥	文化はどのように伝わるのか（伝播論Ⅰ）
11	文化人類学理論⑦	芋はどこから伝わったのか（伝播論Ⅱ）
12	文化人類学理論⑧	日本の地域性
13	文化人類学理論⑨	構造主義について
14	儀礼について	通過儀礼とは何か
15	まとめ	講義まとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式によって進めていく（パワーポイントの併用）。その際、受講生の理解度を高めるために、資料や視聴覚メディア等の各種教材を使用する。上記の配布資料以外に、コメントシートを配布し、回収後に解説やコメントをすることで受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに代わるレポート(70%)、②授業への意欲的参加（30%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	必要に応じて示す			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

質問や相談等は授業後や Teams にて受け付ける。また、本講義はコメントシートに寄せられた内容を可能な限り講義で紹介する。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域データ分析論（データサイエンス入門）◆	経営情報論	佐藤 茂幸	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

地域の多くが人口減少を伴って、持続可能性が危ぶまれている。これに対処すべく、地域にある自治体・企業・社会はさまざまな政策や戦略、活動を展開している。しかしながら、その効果が十分に発揮されているとはいえず、現状、その衰退に歯止めがかかっているとは言えない。そこで求められるのが地域データの分析と活用である。つまり、地域問題をデータに基づいて客観的・具体的に把握し、そしてその打ち手となる地域政策等の効果を定量的に計測するのである。

本講義は、こうした地域データの利活用の基礎を、地域教養プログラムの一環として多面的に学んでいく。そして、得た知識を卒業レポート等で行う調査・研究に生かすことを狙いとしている。また、データサイエンスに必要な理論も網羅的・体系的に紹介し、各自が進学後や就職時に修得すべき専門的デジタルスキルのテーマを見極めることも本授業の目的とする。

(3) 到達目標

- ① 自身の社会的な問題意識において、さまざまある実際の統計データから、地域課題を定量的に把握することが出来ている。
- ② 選択したコース分野において、データ分析の意義を第三者に語ることができる。
- ③ データ分析の基礎を修得し、これを卒業レポートにおける自身の研究に応用するといった、モチベーションを獲得している。
- ④ 地域データの活用に基づくデジタル化の本質を捉え、自分自身のキャリア設計や働き方が展望できている。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	データからみる地域状況：人口	地方人口の動態、人口ピラミッド、人口の自然増減・社会増減
2	データからみる地域状況：地域	労働力人口、事例に基づく人口分析（山梨県、大月市を事例に）、地元分析
3	データ分析の意義：経済①	県民経済、自治体の財政力、産業構造、地域間比較による地域経済の分析
4	データ分析の意義：経済②	「漏れバケツ」モデル、地域経済循環分析（生産・所得・分配）
5	データ分析の意義：政策①	EBPM（Evidence Based Policy Making）、アウトカム、インパクト
6	データ分析の意義：政策②	ロジックモデル、KPI、総合計画（事例：大月市の政策分析）、地元分析
7	データ分析の意義：経営①	労働生産性、DX、SCM、IoT、デジタルツイン
8	データ分析の意義：経営②	デジタルマーケティング、D2C、WEB3、ブロックチェーン、データ駆動型経営
9	分析の実際①：統計データ	オープンデータの活用、政府統計（e-Stat）、RESAS
10	分析の実際②：データの収集	統計学の初歩、アンケート分析、分散・標準偏差、散布図、相関関係
11	分析の実際③：現状把握	標本調査、信頼区間の推定、回帰分析、SWOT分析
12	分析の実際④：効果測定	仮説検定、経済波及効果、プログラミング思考、データサイエンスの必要性
13	地域産業と情報技術：農業 DX	FssS、スマート農業、WAGRI
14	地域産業と情報技術：観光 DX	観光プラットフォーム、DMO。ネットワーク効果、地域ブランド
15	地域産業と情報技術：地域社会 DX	スマートシティ、デジタル田園都市、データ連携基盤、ファレンスアーキテクチャー

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は、概ね60分間の講義と、30分間の演習で構成する。講義では、教員の解説に加えて、動画視聴、関連WEBや実データの参照などを多用する。一方、演習は、大月市や学生が居住する地域データを調べながら比較考察する時間を設定する。したがって、課題の発表や教員と学生の双方向の質疑応答によって授業を運営していく。そして、講義中において実際の地域データを検索するなどの機会があるため、PC・タブレット・スマホ等の電子媒体の持ち込みを推奨する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末テスト（70%）、② 毎回授業のミニ課題や質疑応答に関わる授業貢献度（30%）。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	授業のなかでテキスト資料を配布する			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

大月学入門、地域実習、統計学Ⅰ・Ⅱ、地域経済論、地方自治論、観光ビジネス論、農業経済学、地域福祉論

(9) オフィスアワー・その他

当授業は、一般教育科目に属しているが、経済・公共政策・経営・社会文化の各分野との専門的な結びつきの強い科目である。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域文化遺産論（地域と文化遺産）◆	稲垣 自由	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

文化遺産とは、地域の歴史や文化の中でつくられ、地域住民によって現在まで保存・継承されてきたものである。これらを法や条例によって保護していくのが文化財の指定・登録制度であるが、近年では文化遺産を保存するだけでなく、観光やまちづくりの資源として活用することも求められている。また、文化財として固定した学術的・芸術的な価値基準のみならず、地域住民がどのような点に価値を見出して文化遺産を捉えているのか把握することも保存・活用を図るうえで重要な視点となる。

本講義では、講義形式の授業で文化遺産について学習することに加え、大月市の文化遺産を中心に画像・映像を用いて紹介する。そして文化遺産の保護に関する政策と文化遺産のもつ多様な価値について理解することを授業の目的とする。

(3) 到達目標

- ①文化遺産について知り、その保護制度について説明することができる。
- ②文化遺産の多様な価値を理解し、自身の身の回りのものに置き換えて考察することができる。
- ③文化遺産を活用するための視座を修得し、他分野にも応用することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	文化とは何か、遺産とは何か
2	文化遺産を保護する制度①	文化財保護法
3	文化遺産を保護する制度②	ユネスコ世界遺産、無形文化遺産
4	文化遺産を保護する制度③	大月市の文化財保護
5	大月市の文化財①	重要文化財星野家住宅
6	大月市の文化財②	山梨県指定無形民俗文化財追分の人形芝居
7	大月市の文化財③	名勝猿橋
8	埋蔵文化財	埋蔵文化財と発掘調査
9	文化遺産の多様な価値①	日本遺産、文化GDP、クールジャパン
10	文化遺産の多様な価値②	路上観察学の視点、文化資源学の視点
11	文化遺産の多様な価値③	虚構と伝説、大月桃太郎伝説の分析
12	文化遺産の多様な価値④	浅利を知る会の活動
13	文化遺産の多様な価値⑤	教育活用と観光活用
14	文化遺産の保存・継承における課題①	文化財保護法改正とこれからの模索
15	まとめ	総括

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で授業を進めていくが、各自が個々の考えを表現する時間（具体的には終了後のコメントカード提出とそれに対するリアクションを授業の初めに行う）を設定する。毎回レジュメや資料を配付し、パワーポイントを使って授業を進めていく。また、画像・映像等の資料を積極的に用いて文化遺産について具体的なイメージを持てるようにする。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①学期末にレポートを提出する（60%）、②コメントカードへの感想・疑問について記入や授業貢献度（40%）の合計点数によって評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。プリント配布。			
参考書	授業内指示。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

大月市の文化遺産を中心に上げるため、「大月学入門」を履修し大月市の情報を知っているとより理解が深まる。

(9) オフィスアワー・その他

特になし。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
ミクロ経済学B (市場の失敗)	佐藤 克春	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得。

(2) 授業概要と目的

前期のミクロ経済学AC1・AC2では、市場のメカニズム・メリットについて主に学んできた。しかし、市場は万能ではない。現実社会において、政府は様々な形で市場経済に介入している。
ミクロ経済学Bでは、ミクロ経済学AC1・AC2をふまえ、市場の限界と政府の役割について学んでいく。より現実社会・経済に一步近づいた分析を行う。本講義では、なるべく数学を使わず、ミクロ経済学の考え方について勉強していく。回によって、受講者の理解度を測るための小テストを行う場合がある。

(3) 到達目標

- ① 市場メカニズムの基本的な仕組みを理解する。
- ② 市場の失敗の基本的な考え方を理解する。
- ③ 市場の失敗への政府介入の基本的な考え方を理解する。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	講義の進め方、評価方法のレクチャー
2	ミクロ経済学とは？	ミクロ経済学AC1のおさらい 総余剰の最大化を目指して。
3	市場の失敗と政府①	市場の失敗とは？・政府介入の例を考える。
4	市場の失敗と政府②	政府の失敗とは何か？
5	外部性①	外部性とは？正の外部性・負の外部性を考える。
6	外部性②	外部性を解決・軽減する取り組み ビグー税の適用可能性を考える。
7	公共財①	公共財とは何か？ 非競争性・非排除性を考える。
8	公共財②	準公共財とは？公共財の供給とフリーライダー問題を考える。
9	取引費用①	コースの定理とは何か？ 権利設定の政策利用を考える。
10	取引費用②	法と経済学のエッセンス。取引費用の経済学を考える。
11	情報の非対称性	情報の非対称性とは何か。レモンの原理を考える。
12	独占	独占がもたらす非効率性とその対策。独占禁止法を考える。
13	交易の利益	各国が得意分野に特化するメリット。リカードの比較優位費説の適用を考える。
14	ゲーム理論	競争と協調のメカニズム。囚人のジレンマを考える。
15	講義のまとめ	本講義のまとめ、期末テスト説明。

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義の進め方は、パワーポイントによる解説となる。本講義はいわゆる暗記科目ではなく、ミクロ経済学の考え方を論理的に習熟するものである。配布レジメの復習を勧める。また、講義内で指示する参考書を読み進めることも併せて勧める。

(6) 成績評価の方法と基準

評価は期末テストが100%である。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	プリント配布			
参考書	マンキュー経済学Iミクロ編第3版	N・グレゴリー・マンキュー（足立英之ほか訳）	東洋経済新報社	4,400円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

ミクロ経済学A

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼に設定する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済学説史A（経済学の生誕）	伊藤 誠一郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

アダム・スミスが経済学を作ったということ、彼の描いた自由主義経済の理想は今日なお理想として追い求められていることは、21世紀になった今になってすら実感できることである。しかし、実際の経済・社会の歴史のプロセスは直線的なその理想の追求とはほど遠いこと、そしてなによりもスミス自身がどのような「現実」のなかで彼の理想を語っていたのかにはあまり注意が払われないのも事実である。アダム・スミスがいた社会はすでに今日と同じように、貨幣・金融、貿易、貧困などの経済問題や政治についての諸問題が激しく議論されていた社会であり、スミスの『国富論』はそれに対するひとつの解答でもあった。本講では、こうした視点から、まずスミスが登場するまでのイギリス、そしてヨーロッパにおいて、なにが問題とされどのように議論されていたのかを示し、それに対してスミスが与えた新しい経済・社会像はどのようなものであったのかをみていく。

(3) 到達目標

- ① 思想史の学び方について考える。
- ② 17・18世紀のヨーロッパ社会がどのような問題を抱えていたのかを知る。
- ③ アダム・スミスにおける経済学の創造に至るプロセスおよび、その特徴を学ぶ。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	経済思想の過去と現在(1)	「経済学の生誕」、スミスの理想=新しい社会像
2	経済思想の過去と現在(2)	スミスの幻想、スミスの前提としてのホッブズの政治哲学
3	スミス以前の現実(1)	ホッブズと恐怖に満ちた社会
4	スミス以前の現実(2)	国際社会と経済
5	スミス以前の現実(3)	オランダとの競争
6	スミス以前の現実(4)	国際競争の中の貿易、利子、金融制度
7	スミス以前の現実(5)	フランスとの競争
8	富と徳(1)	古典共和主義
9	富と徳(2)	新しい富の台頭と徳の腐敗
10	為政者と経済学(1)	有能な為政者・徳による統治
11	為政者と経済学(2)	ジェームス・ステュアート、為政者の経済学
12	スミスと経済学の成立(1)	仁愛か正義か
13	スミスと経済学の成立(2)	自然法学と経済学
14	スミスと経済学の成立(3)	重商主義批判
15	スミスと経済学の成立(4)	スミスの経済学、自由主義の理想と現実

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題（質問に対する答え、自由コメントなど）への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（50％）、② 授業内課題（50％）。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	『徳・商業・文明社会』	坂本・長尾編	京都大学学術出版会	6,600円
参考書	『経済学史』	水田他編	ミネルヴァ書房	3,520円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学説史B

(9) オフィスアワー・その他

質問等は授業の前後、オフィスアワーでも答えます。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
計量経済学（回帰分析の概念と手法）	経済統計学B	上西 雄太	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

計量経済学は、経済理論が現実の経済に当てはまっているのかをチェックしたり、表面的には把握しにくい経済的な法則性・関連性を発見したりするために、統計学から発展した学問分野である。また近年の情報処理技術の発達に伴い、Excel や R などの統計ソフトを用いることで容易にそのような分析ができるようになった。本講義は、計量経済学のコアともいえる回帰分析の概念をおもに学び、Excel を用いて回帰分析の手法による現実経済の分析ができるようになることを目的としている。講義の最初は統計学のおさらいから始め、単回帰分析・重回帰分析とその周辺を学んでいく。「統計学 I/II」をセットで履修しマスターできたら、各々の関心ある分野で専門的なデータ分析ができるようになるであろう。

(3) 到達目標

- ① 計量経済学の基礎である、回帰分析に関する基本的な概念と手法を理解する。
- ② 演習問題をこなすことで、各々が問題関心のある分野について回帰分析の手法を用い分析できるようにする。
- ③ 計量経済学の考え方・プロセスを学ぶことで、論理的思考力や説明力高める。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方・評価などの説明
2	確率と統計のおさらい（1）	記述統計の基礎、確率と確率変数、正規分布
3	確率と統計のおさらい（2）	大数の法則と中心極限定理
4	確率と統計のおさらい（3）	信頼区間の推定
5	確率と統計のおさらい（4）	仮説検定
6	関連の分析（1）	散布図と共分散
7	関連の分析（2）	相関係数、具体的な相関係数の分析
8	回帰分析（1）	回帰分析の導入、単回帰分析
9	回帰分析（2）	最小2乗法
10	回帰分析（3）	Excel を用いた単回帰分析の方法
11	回帰分析（4）	誤差分散、標準誤差、決定係数（傾きの回帰係数の説明力）
12	回帰分析（5）	傾きの回帰係数の信頼区間の推定
13	回帰分析（6）	傾きの回帰係数の有意性（仮説検定による有意性のチェック）
14	回帰分析（7）	重回帰モデル、Excel を用いた重回帰分析の方法、回帰係数の説明力と有意性
15	回帰分析（8）、レポートについて	重回帰分析の注意点、レポートの詳細と注意点

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で進めていく。教科書は無く、独自の講義用レジュメを配布しそれに従い解説・補足を行う。必要に応じて講義の最後に演習問題を解く予定である。また、Excel を用いて実際に分析する過程を見せる予定である。各々ノート PC を持ち込んで、模倣して分析の練習をしても良い。予習については基本的に不要である。しかし、復習と講義外課題には十分な時間を取って欲しい。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① レポート 80%
 - ② 授業内外での課題 20%
- 詳細については、初回講義時に説明する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	『統計学基礎講義 第3版』	秋山裕 著	慶應義塾大学出版会	3,960 円
参考書	『Rによる計量経済学 第2版』	秋山裕 著	オーム社	3,080 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「統計学 I/II」の内容の続きを講義する関係上、「統計学 I/II」を履修することを強く勧める。なお、本講義で身につく回帰分析の手法は、経済学の広い分野で応用が効く。

(9) オフィスアワー・その他

分からなくなったら、是非とも講義中に質問して欲しい。分からないことはその場で解決するのがベストであるし、1人が疑問に思ったことは大抵複数人が疑問に思っていることなのだから。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会経済学（資本主義体制の仕組み）	范立君	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義は現代社会の経済（資本主義生産体制）の仕組みについて、説明する。講義内容は主に以下の3つの内容からなる。

- 第1 経済学は「何を」明らかにする学問であろうかについて、考察する。
- 第2 (社会)経済学の土台＝労働を基礎とする社会把握について、勉強する。
- 第3 資本主義的生産様式はどのようなものであり、どのような仕組みをもち、どのようにして再生産されているのか、を勉強した上、さらに、資本主義の経済的運動法則、すなわちその発生・発展・消滅の法則をも考える。

(3) 到達目標

- ① 将来、経済系大学に進学するための基礎学力をつけること。
- ② 立派な社会人として、多くの分野に応用できる物事の見方や一定の問題の解決方法を知ること。
- ③ 自分のキャリア計画を含め、人類、そのものの行方について、視野に入れることができること。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	社会経済学で何を学ぶか
2	現代社会と社会経済学	現代社会の特質は資本主義という社会形態にある、経済学の対象と方法
3	労働と生産	労働と労働力の違い、生産力と生産関係
4	生産様式とその交替	生産力の発展と社会発展の一般的法則
5	資本の生産過程①	商品と貨幣、貨幣の機能、資本とはなにか
6	資本の生産過程②	付加価値とは何か、資本と利潤
7	資本の生産過程③	利潤率の傾向的に低下法則
8	生産力発展のための諸方法①	協業、分業とマニファクチュア
9	生産力発展のための諸方法②	機械と大工業
10	授業内小テスト	上記今までの内容の考察
11	資本主義的生産関係と労賃①	資本主義的に生産関係＝資本・賃労働関係の具体的に内容
12	資本主義的生産関係と労賃②	労賃とはなにか、その本質と現象形態
13	資本の再生産①	単純再生産
14	資本の再生産②	資本の蓄積と拡大再生産
15	資本の再生産③	資本主義的生産の歴史的位

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末レポート（70%）、② 一言カードへの感想・疑問への記入（30%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	図解 社会経済学	大谷禎之介	桜井書店	3,300円
参考書	特になし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門、マクロ経済学など「経済分野の主要科目」の履修を勧める。

(9) オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）

※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本経済史B (戦後期)	戦後日本経済の歩み	福地 幸文	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の習得）。

(2) 授業概要と目的

この授業では、主に敗戦直後から現在までの日本の経済史について学ぶ。戦後の改革を通して日本がどのように生まれ変わったのかを理解する。加えて、戦前からどのような要素が引き継がれたのかを見ながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を追う。また、経済政策が日本経済の在り様にいかなる影響をもたらしているのかを考える。

(3) 到達目標

- ① 戦後における日本経済発展の仕組みを理解している。
- ② 現代の日本経済の問題点がどこにあるのかを歴史的に考察できる。
- ③ 経済と政治の関係を踏まえた上で、経済政策の効果を考察できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	授業内容の説明など
2	敗戦直後の日本経済と民主化政策	敗戦直後の日本経済、戦後の民主化政策
3	経済の復興1	初期の占領政策と日本の対応、アメリカの政策転換
4	経済の復興2	ドッジライン、労働政策の変化、朝鮮戦争、サンフランシスコ講和条約
5	高度成長期1	高度成長の20年、国際環境、成長と循環
6	高度成長期2	政策と社会
7	高度成長期3	まとめ（高度成長期の政策、事業および社会問題の主要な側面）
8	1970年代の日本経済1	ニクソン・ショックの背景、2つのショックと高度成長の終焉
9	1970年代の日本経済2	成長率低下への調整、減量経営と戦後社会の転換
10	1980年代の日本経済1	国際経済・通貨の激動、新自由主義改革の始まり
11	1980年代の日本経済2	バブル経済
12	バブル崩壊以後の日本経済1	バブル反動不況、不況の二番底
13	バブル崩壊以後の日本経済2	長期不況からの脱出、小泉内閣の構造改革
14	世界金融危機前後の日本経済	平成不況からの脱出と世界金融危機、東日本大震災前後の日本経済
15	まとめ	新型コロナウイルス（COVID-19）と社会・経済、定期試験について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前にTeamsにアップロードする。
- ② Teamsを使って課題を提示する（10回を予定）。
- ③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（50%）、②授業の課題（40%）、③ 授業貢献度（10%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特に指定しない。			
参考書	日本の経済 一歴史・現状・論点	伊藤 修	中央公論新社	990円
	日本経済—その成長と構造 [第3版]	中村隆英	東京大学出版会	3,800円+税

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史A、西洋経済史

(9) オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
西洋経済史（西洋経済の近現代史）	経済史A	福地 幸文	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の習得）。

(2) 授業概要と目的

この授業では、私たちが生活する資本主義世界に対する分析や理解を深めるために、近代以降において西洋（主にヨーロッパと北米）の経済活動や人々の生活から資本主義がどのように発展、変容してきたのかを学ぶ。西洋経済における近代化の歴史的起点を確認した上で、商業革命、市民革命、そして産業革命へと展開する西洋の経済発展の過程を考察する。また、二度にわたる世界大戦の西洋経済に与えた影響、並びに第二次世界大戦後の西洋経済の発展過程を概観する。そして最後に、これからのグローバル経済について検討する。

(3) 到達目標

- ① 近代西洋経済の発展過程を理解している。
- ② パクス・ブリタニカ、パクス・アメリカーナなど覇権国家の形成・移行過程を理解している。
- ③ これからのグローバル経済について考察できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	授業内容の説明、世界のGDPの推移、グローバル経済の形成
2	商業革命と「中世の世界経済」の解体	中世貿易の枠組みの分解、地理上の発見と東インド貿易、アジア域内貿易
3	16～17世紀の経済発展	価格革命、農業、工業、イギリス毛織物工業のセクター転換
4	絶対王政と市民革命	絶対王政、イギリス革命、フランス革命、フランス革命の波及
5	イギリスの重商主義	イギリス重商主義の支配体制、重商主義の経済政策
6	産業革命前夜のイギリス経済	農産物需給関係の逆転、大衆的購買力の上昇、18世紀前半のイギリス経済の特質
7	イギリスの産業革命	産業革命へのスタート、綿工業における工場制度の成立、イギリス産業革命の特質
8	技術進歩と工業化	ヨーロッパ大陸諸国の産業革命、技術進歩と工業化
9	世界市場の成立とアメリカ経済の発展	世界市場の成立と構造、アメリカ経済の発展1
10	アメリカ経済の発展と大不況の到来	アメリカ経済の発展2、19世紀末の大不況と資本主義の構造転換
11	第一次大戦前の世界経済	第一次大戦前の世界経済
12	世界大戦とヨーロッパ経済1	第一次世界大戦の経済史的意味、1920年代の繁栄から世界恐慌
13	世界大戦とヨーロッパ経済2	世界恐慌とヨーロッパ経済、第二次世界大戦
14	第二次世界大戦後のヨーロッパ経済1	戦後国際経済の枠組みと冷戦、
15	第二次世界大戦後のヨーロッパ経済2	経済成長の時代、危機とグローバル経済、EUへの道

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

- ① 基本的に講義形式で行う（パワーポイントを投影する）。授業の配布資料を事前にTeamsにアップロードする。
- ② Teamsを使って課題を提示する（10回を予定）。
- ③ 毎回、出席の確認をする。必要に応じて理解度の確認を行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（50%）、②授業の課題（40%）、③ 授業貢献度（10%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	新版 西洋経済史	石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田實	有斐閣	1,980円
参考書	グローバル経済史入門	杉山伸也	岩波書店	946円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史B、西洋経済史

(9) オフィスアワー・その他

授業後に受け付けます（要予約）。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本経済論	山口 隆太郎	1	前期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義では、現代の日本経済とその特徴を学び、また現在抱えている課題を把握していく。そしてなぜ、そのような現状になっているのか、戦後からの経済発展の軌跡をてがかりに考察していく。現代の日本の経済構造は、GHQによる戦後改革のあった戦後復興期、高度経済成長期、オイルショック後の安定成長期、バブル経済とその崩壊後、といった各時期の社会・経済状況に影響された結果として、今日の姿になっている。この講義を通して各時期に日本が直面していた問題と、どのようにその解決を図ろうとしていたのかを学ぶことで、少子高齢化を迎えたこれからの日本経済・社会のあり方を考えるための、知識を身につける。

(3) 到達目標

- ①日本経済・社会の構造とその形成過程を理解する。
- ②日本経済・社会が現在抱えている課題についての知識を身につける。
- ③日本社会を数値で把握する

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	日本社会のこれから	少子高齢化のもとでの、日本経済・社会の現状と課題
3	戦後改革と経済復興	連合国・GHQ下における戦後の政治・経済改革 —もはや戦後ではない—
4	成長のメカニズム	経済成長に必要な投資を支えたメカニズムとは
5	日本特有のメインバンクシステム	戦後の経済構造の基礎をなしたメインバンクシステム
6	土建国家と公共事業①	均衡ある国土の発展を目指した土建国家
7	土建国家と公共事業②	財政投融资は都市と地方の所得保障にどうかかわったのか
8	日本型福祉社会論と企業①	人々の暮らしを守る福祉のあり方と企業
9	日本型福祉社会論と企業②	家族（女性）が福祉を提供する体制を支えた住宅政策
10	貿易立国①	Made In Japan はいつから信用を得たのか？
11	貿易立国②	日米自動車摩擦、牛肉とオレンジ
12	円は強い？	ブラザ合意と輸出産業
13	バブル崩壊と失われた20年	バブル崩壊後の経済の苦境
14	構造改革と日本経済	構造改革は何をもたらしたのか
15	まとめ	日本経済のこれから

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメと資料を適宜配布する）。各授業の開始時に、前回授業で得た質問・感想についてコメントをしていく。テキストを使用しないので、予習の必要はないが、授業を受けた日のうちにレジュメを見かえし、議論の内容を復習すること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（70%）と授業内における課題等（30%）により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	なし			
参考書	なし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

日本経済史など

(9) オフィスアワー・その他

授業前後以外での質問方法などは、授業にて指示を出す。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本企業論	唐澤 克樹	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義では、グローバル化が進展する現代において日本企業がどのような特徴や課題をもち、社会の一員としてどのような貢献をしているか考察することが目的である。そのために、戦後日本における産業構造や就業構造の変化、ライフスタイルの変化、就業形態や働き方の変化、地場産業や地域商業の変化、中小企業政策の変化について考察する。本講義の前半では主に雇用・労働やライフスタイルなど側面から日本企業について検討し、就職活動や就職後における自分自身のキャリアについて考える。後半では、主に中小企業に焦点をあて、地場産業の事例として繊維・アパレル産業について検討し、地場産業やその主たる担い手である中小企業の経営的特徴と課題、地域との関係性について考察する。これらを通じて、グローバル化が進展するなかで日本企業がどのような存在となっていくのかを考えていく。

(3) 到達目標

- ①戦後日本における産業や企業の変化について説明することができる。
- ②就職活動や就職後に自分のキャリアデザインを考えることができる。
- ③繊維・アパレル産業の事例を基に地場産業や中小企業が抱える諸問題や解決策を考えることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	日本企業論を学ぶ目的と意義、授業の内容、授業の進め方、評価方法
2	産業と企業の捉え方	産業の分類、企業の分類、中小企業の定義
3	グローバル化と日本企業	グローバル化とは、産業と企業の変化、六大企業集団、グローバル大企業
4	大学生の就職活動と日本企業	就職活動、新卒採用、OJT、OFF-JT、日本的雇用慣行
5	仕事とキャリア	働くことと進学すること、キャリアデザイン、職業キャリア、ライフキャリア
6	就業形態の多様化と働き方	就業形態の多様化、働き方、労働者性、最低賃金、労働運動
7	起業・創業とM&A	中小企業、ベンチャー企業、スタートアップ企業、倒産・廃業、M&A
8	企業誘致と地域開発	コンビナート開発、企業誘致、公害問題、環境再生
9	地場産業と中小企業 (1)	地場産業とは、地域の歴史・文化、地域の社会・経済
10	地場産業と中小企業 (2)	繊維・アパレル産地、アパレルとファッション、ファッションと資本主義
11	地場産業と中小企業 (3)	ファストファッションの功罪、トレンドと価格、品質、労働問題、貧困問題
12	地場産業と中小企業 (4)	外国人労働力、デザイン戦略、中小企業のネットワークと連携
13	地域商業と中小企業	大規模小売店、Web販売、中小小売業、商店街、買い物難民対策
14	中小企業政策	中小企業政策の歴史、中小企業政策の必要性と範囲
15	まとめ	グローバル化の進展、大企業経営、中小企業経営、企業と地域の社会・経済

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

板書、スライド、配付資料を併用しながら授業を展開する。必要に応じて、動画、写真、マップやストリートビューを用いる。受講生自身が文献調査をしたり、ディスカッションをしたりする場を設けるなどして、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。毎回の授業で、授業に対する意見、感想、質問等をまとめたリアクション・ペーパーの提出を求める。その内容は、次回以降の授業を通じてフィードバックする。受講生は、授業で見聞きしたことを基にノートを作成し、自分なりの意見をもつことが望まれる。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業内課題（40%）、②期末レポート（60%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	地域づくりの経済学入門（増補改訂版）	岡田知弘	自治体研究社	2,970円
参考書	地域とつながる中小企業論	長山宗広 他	有斐閣	2,420円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営学入門、企業システム論、日本経済論、地域経済論などを勧める。

(9) オフィスアワー・その他

社会や経済の情勢に注視し、それに対する自分なりの考えをもつこと。講義内容は、社会情勢の変化や受講生の興味関心によって若干変更する場合がある。質問等は、毎回の授業終了後や授業コメントで受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
金融論B (金融の理論と現状)	伊藤 誠一郎	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準 (ディプロマポリシー) との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している (専門的な知識の修得)。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる (「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

金融システムの安定性、健全性が経済全体の行方にとっていかに重要なものであるか、そしてそれが国家の政策といかに深くかかわっているかは2008年の世界金融危機、2011年のユーロ危機の経緯を見ればよくわかる。金融システムは政治が、人間がつくりだしたものであり、その設計の仕方によっては、金融のみならず経済全体に破滅的なダメージを与えることになる。しかし、いつもそうした危機がおきるまで正しい設計がなにか分からないままである。なぜなのだろうか。本講ではこうした疑問への解答を探るために、金融システムのあり方を、日本の金融制度を具体例としてあげ、それを理論的に分析し、その上で現状がなぜそのようになってしまったのかを明らかにしていきたい。

(3) 到達目標

- ① 今日の金融システム、現状、理論についての知識を習得する。
- ② 貨幣数量説など、金融の基本的な分析手法を学ぶ。
- ③ 今日の日本の銀行システムや証券市場についての仕組み、基本的な知識を学ぶ。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	金融とは何か	間接金融と直接金融
2	貨幣と物価 (1)	貨幣数量説
3	貨幣と物価 (2)	貨幣数量説をめぐる諸説
4	わが国の貨幣 (1)	さまざまなかたちの貨幣
5	わが国の貨幣 (2)	日本銀行券、その他
6	金融政策 (1)	決済システムと中央銀行
7	金融政策 (2)	準備預金制度
8	金融政策 (3)	公定歩合操作と公開市場政策
9	ケインズ政策 (1)	ケインズの貨幣理論
10	ケインズ政策 (2)	長期不況と金融政策、財政政策
11	国際通貨の興亡	IMF体制とその崩壊、金廃貨
12	バブルと日本経済 (1)	高度成長期の日本の金融
13	バブルと日本経済 (2)	低成長と資産インフレ
14	バブルと日本経済 (3)	バブル崩壊と平成不況
15	新しい金融のあり方	不良債権処理とその後

(5) 授業の進め方と方法 (授業時間外の学習)

講義形式。板書と口頭での説明をノートに取ってもらうが、学生の知識量、理解度を確認するために、適宜、挙手を求めたり、個別に指名して質問に答えてもらうことがある。また、授業内課題 (質問に対する答え、自由コメントなど) への回答を通じて、理解を深める。適宜、とくに定期試験前には、ノートの通読を各自おこなうことを求める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験 (50%)、② 授業内課題 (50%)。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目 (他の科目との前後のつながり)

マクロ経済学A・B

(9) オフィスアワー・その他

本講義では補いきれない理論的な部分は上記関連科目で行なうのでできるだけ履修すること。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
国際経済学（国際貿易の基礎理論の考察）	千原 則和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

(2) 授業概要と目的

「国際経済学」は、財やサービスの国境を越えた取引を分析する「国際貿易論」と、カネの国境を越えた取引を分析する「国際金融論」の2つの柱で構成されている。本講義では、前者の「国際貿易論」に焦点を絞って、国際貿易の基礎理論および貿易政策の基礎を学習する。後者の領域は、2年次から履修可能な「国際金融論（国際的な金融取引の仕組みと歴史）」で学ぶことができる。

本講義の目的は、国際貿易論の基礎理論の学習を通じて、国家間で貿易を行うこと（＝自由貿易）のメリットと、貿易を制限すること（＝保護貿易）のデメリットを理解することにある。具体的には、①国家間で貿易を行うと国際経済にどのようなメリットが生じるのか、②途上国が先進国と貿易を行ってもメリットがあるのか、③政府が貿易を制限すると国内経済や国際経済にどのようなデメリットが生じるのか、④にもかかわらずなぜ国は貿易に制限をかけようとするのか、について考察していく。

(3) 到達目標

- ①国際貿易論・貿易政策の基礎を習得し、編入試験・大学院入試・資格試験等に必要な知識を積み上げることができるようになる。
- ②基礎的な貿易理論を自力で説明することができるようになる。
- ③経済学のテキストに示されている図表が、何を意図し何を伝えようとしているのかを汲み取ることができるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	「国際経済学」の学問体系と本講義で学習する「国際貿易論」の範囲を紹介する
2	比較優位と分業の利益	国際貿易の基本概念を理解する①：交換・特化・分業・絶対優位・比較優位・機会費用
3	比較優位と国際貿易①	国際貿易の基本概念を理解する②：比較生産費説（リカード・モデル）・完全市場
4	比較優位と国際貿易②	貿易を行うことのメリットを把握する：閉鎖経済・不完全特化・自由貿易・完全特化
5	比較優位と国際貿易③	自由貿易によって先進国・途上国双方にメリットが生じるメカニズムを理解する
6	部分均衡分析①：基礎	余剰分析・「小国・大国のケース」を理解する：消費者余剰・生産者余剰・総余剰
7	部分均衡分析②：小国のケース	貿易による経済厚生増加（＝貿易利益）を「見える化」する：総余剰の変化
8	部分均衡分析③：大国のケース	大国の行動が国際価格や経済厚生に及ぼす影響を検討する：総余剰の変化（2国モデル）
9	比較優位の決定要因	供給面で比較優位性を決定づける5つの要因を考察する：ヘクシャー＝オリーン定理等
10	国内産業保護政策（小国のケース）①	輸入制限のデメリットを検討する：輸入関税・輸入割当・「デッドウェイト・ロス」
11	国内産業保護政策（小国のケース）②	輸入制限に代わる国内産業保護政策を考察する：生産補助金・消費税
12	国内産業保護政策（大国のケース）	大国が関税賦課で利益を生むメカニズムを理解する：最適関税・禁止的関税
13	国内産業保護政策のまとめ	保護貿易を正当化する3つの根拠を検証する：①最適関税・②市場の失敗・③雇用確保
14	貿易政策の政治経済学①	保護貿易政策が採用されやすい理由を考察する：集合行為論（利益団体）
15	貿易政策の政治経済学②	利益団体の政治活動で保護貿易政策が採用されるメカニズムを理解する：ロビー活動

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

参考書『国際経済学をつかむ（第2版）』の内容に沿って、プリント資料とパワーポイントを併用して講義形式で進める。講義開始前に、参考書の各単元の概要をまとめたプリント資料を配布する。講義で使用したプリント資料やパワーポイントは、終了後にMicrosoft Teams「国際経済学」にアップロードする。「国際経済学」の内容に関係する時事問題については、随時、講義で紹介する（主に報道・ドキュメンタリー番組）。各単元終了時に、簡単な「理解度チェックテスト」を実施する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（80%）と②授業内課題（20%）の合計点数により評価をする。
- 定期試験も、理解度チェックテストも、「多肢選択式（マークシート方式）」で出題する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	国際経済学をつかむ（第2版）	石川 城太 他	有斐閣アルマ	2,420 円
参考書	はじめて学ぶ国際経済（新版）	浦田 秀次郎 他	有斐閣アルマ	2,200 円
参考書	国際経済学	阿部 顕三・遠藤 正寛	有斐閣アルマ	2,640 円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「経済学入門」・「基礎経済学」などの基礎的な経済学の科目を復習しておくことが望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの調整や変更がありうる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
アジア経済論（中国の躍起）	范立君	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

第2次世界大戦後、貧困と停滞の地として語られていたアジアは、1970年代以降、地域として工業化と対外開放を進め、「東アジアの奇跡」と呼ばれた急速な経済成長を遂げた。アジア経済と関連して、人々の暮らしは急激に変化してきた。私たちの住むアジアの変化の特徴とその背景を理解することは、私たちの今と将来を考えるうえで、ことのほか重要である。本講義は、以下の3つの側面から、アジア経済について、基本的な知識を中心に学ぶ。

- 第1：第2次世界大戦後におけるアジア経済の歩み
- 第2：第2次世界大戦以降の中国経済の歩み
- 第3：中国、日本、韓国とASEANを中心とする経済統合

(3) 到達目標

- ① アジア地域の経済に関して、関心・興味を深める。
- ② 第2次世界大戦後、中国経済の展開、躍起とその問題点について考える。
- ③ アジアの経済統合の仕組みについて、把握してもらう

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	アジア経済論で何を学ぶか
2	アジアの概況とアジア経済の現状	本講義で扱うアジアの範囲、およびその経済の現状など
3	「日本一極」の20世紀①	日本の戦後復興と高度成長
4	「日本一極」の20世紀②	雁行形態型発展モデル、キャッチアップ型工業化論など
5	「日本一極」の20世紀③	NIEsの躍進、中国の「復帰」
6	アジアの経済統合①	デファクトの経済統合とグローバル・バリューチェーン
7	アジアの経済統合②	デジュールの経済統合と今後の課題
8	「世界の工場」から「世界の市場」へ	アジア生産ネットワークの組み立て現場としての中国、消費大国化しつつある中国
9	中国の台頭と新興アジア経済へ①	鄧小平と改革問題の提起
10	中国の台頭と新興アジア経済へ②	労働市場と農村からの出稼ぎ労働者
11	中国の台頭と新興アジア経済へ③	中国の出稼ぎ少女たち（動画資料視聴）
12	中国の台頭と新興アジア経済へ④	人口ボーナスと経済発展
13	中国の台頭と新興アジア経済へ⑤	金融改革、国有企業改革など、中国の超高成長の原因について考える
14	中国の台頭と新興アジア経済へ⑥	低所得国の成長率が高い理由、中所得国の罣
15	アジアの時代を生き抜くために	日本衰退論を超えて、アジアとともに未来を築く

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

本授業は授業シラバスを見て、予習できる部分を事前に予習することを望ましい。授業内では、講義をするとともに、関連の視聴覚メディアと新聞記事などの印刷物をも利用する。また、学生の集中力と思考力、そして理解力を高めるため、必要な時に、学生に質問を投げたりもしている。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末定期試験（70%）、② ひと言カードへの感想・疑問への記入（30%）の合計点数により評価をする。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	現代中国の中小企業金融（増補版）	范立君（2021）	時潮社	3,520円
	アジア経済とは何か	後藤健太（2019）	中公新書	902円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

水曜日（11：30～12：30）

※諸般の事情により、講義内容を多少変更することがある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
財政学	山口 隆太郎	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。

(2) 授業概要と目的

財政学の基本的な考え方を、理論と実際の両面から学ぶ。人々が求める公共サービスには、租税の徴収、公債の発行、補助金などすべてのサービスには財源が伴っている。周知のように日本は巨額の財政赤字を抱えており、将来の社会保障や公共サービスの提供が財政破綻によりなくなるのではないかという不安を多くの国民が抱えている。すなわちこれは公債の発行に依存しすぎた結果なのだが、なぜこのような財政問題が日本では生じているのか。そしてどのようにすれば解決できるのだろうか。授業ではこれらを考えるのに必要な知識・物事の見方を学ぶ。（2年前期科目の地方財政論の履修を考えている学生は、この授業を履修することを強く薦める）

(3) 到達目標

- ①財政理論の基本を学び、財政学的視点から社会問題の背後にある問題の背景を理解する。
- ②日本の税制など、財源の仕組みについて理解し、説明できる。
- ③政府の役割と市場の役割の違いを理解し、公共サービスの意義と課題を説明できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	財政とは何か	財政の役割とは何か —なぜ政府がサービスを提供するのか—
3	財政理論の歴史的展開①	王様の財布から公共のお金へ —近代財政のおこり—
4	財政理論の歴史的展開②	政府の役割の変化 —アダム・スミスからケインズへ—
5	予算論①	予算原則 —民主主義を機能させるしくみ—
6	予算論②	日本における予算編成の実態と財政民主主義
7	租税論①	租税原則 —わかりやすく、無駄がなく、公平な税制とは—
8	租税論②	租税理論とその歴史的展開
9	租税論③	主要税目について（所得税・消費税）
10	租税論④	地方税の理論と実際
11	租税論⑤	所得税の計算をしてみよう（労働者O月A子さんを例に）
12	公債論①	政府が借金をすることの意味と、そのルール
13	公債論②	日本における財政赤字と財政健全化への取り組み
14	政府間財政関係	中央政府と地方自治体の仕事にはどのような違いがあるのか
15	現代日本財政の課題	少子高齢化時代における財政運営のあり方

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていく（レジュメと資料を適宜配布する）。各授業の開始時に、前回授業ででた質問・感想についてコメントをしていく。テキストを使用しないので、予習の必要はないが、授業を受けた日のうちにレジュメを見かえし、議論の内容を復習すること。時間外学習としては財政に関する新聞記事を読むなど、つねに社会・経済の問題に関心を持つことが必要。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（70%）、②授業内における課題等（30%）により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	なし			
参考書	なし			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地方財政論

(9) オフィスアワー・その他

2年次科目の「地方財政論」は本授業の内容から発展した学修をする科目になっているので、「地方財政論」履修予定の学生は本授業を履修しておくこと。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
経済政策（実践的に学ぶ経済政策）	佐藤 克春	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得。

(2) 授業概要と目的

長期不況、格差、貧困、社会保障、財政赤字、そして経済のグローバル化、これらはどれも経済政策と深く関わるテーマである。経済政策は私たちの生活に直接かわる実践的な分野である。本講義は、経済政策について理論と現実のズレを意識しながら、その基本的な考え方と、仕組みについて学ぶ。

本講義では、経済政策の手段についての基礎的な知識の習得を前半に行う。後半においては、近年特に日本、そして世界で問題となっている格差問題の是正に向けた再分配政策について学ぶ。

尚、本講義は毎年受講者が少ないため、受講者と相談のうえで講義内容・進め方を変更する場合がある。そのため初回講義は必ず出席すること。

(3) 到達目標

- ① 経済政策の基本的な考え方と仕組みについて理解する。
- ② 経済学的な考え方を応用して、自分なりの主張ができるようにする。
- ③ 現代日本の格差問題について理解し、自分なりの解決策を提示する。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	講義の進め方と評価方法についてのレクチャー。
2	経済政策とは	歴史的になぜ経済政策が求められてきたかを考える。
3	成長と安定の経済政策	長期・短期の経済政策を考える。
4	財政政策の考え方	GDP とは何か。付加価値を増やすという経済政策。
5	財政政策の手段	歳入・歳出政策、財政投融资について考える。
6	金融政策の考え方	物価と貨幣供給量。お金の出し引きによる景気のコントロール。
7	金融政策の手段	金融政策の諸手段。上記の具体的手段を考える。
8	再分配政策①	現代日本の格差構造。「一億総中流」から格差社会へ。
9	再分配政策②	所得再分配に関する考え方。功利主義・格差原理・リバタリアニズム。
10	再分配政策③	労働政策、非正規雇用の現状。労働条件がどのように悪化したのか。
11	再分配政策④	所得再分配の諸手段。累進課税・公的扶助について考える。
12	再分配政策⑤	最低賃金。日本の最低賃金の現状と、先進諸国の潮流。
13	再分配政策⑥	ベーシック・インカム。所得再分配の一つの考え方。
14	格差社会出現の構造	グローバル化と新自由主義、世界的な格差構造。
15	本講義のまとめ	本講義のまとめ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントによる解説と、受講者による文献輪読と報告・議論からなる。また日々の経済政策のニュースを収集すること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 期末レポート（50%）、② 文献報告（50%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	講義内で指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済学入門科目・公共政策入門科目

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼に設定する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
環境経済学（気候変動問題から考える）	佐藤 克春	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（地域貢献力）の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得。

(2) 授業概要と目的

環境経済学では、地球温暖化問題を通じて、環境と経済の関係、そして環境経済学の諸理論を学ぶ。現在、地球温暖化問題にかんする自然科学研究の権威である IPCC（気候変動に関する政府間パネル）によると、産業革命以後の気温上昇を少なくとも 1.5℃以内に抑えないと、目を覆いたくなるような結果が私たちに襲うと予測されている。2030 年までに世界の温室効果ガス排出量を約半分に、2050 年までにゼロにしなければならない。目標達成には、現在の私たちのエネルギー構造・産業・ライフスタイル・そして社会構造の根本的な見直しが不可欠である。21 世紀最大の環境問題と言える地球温暖化問題を通じて、環境と経済の関係を考える。また、地球温暖化問題への政策アプローチを考える際に、環境経済学の諸理論・考え方が実際に使われている。外部性・環境税・排出権取引などの政策理論を学んでいく。

(3) 到達目標

- ① 環境と経済の係わりについて理解する。
- ② 環境経済学の基礎理論を理解する。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	講義の進め方と評価方法についてのレクチャー。
2	温暖化による被害予測①	IPCC1.5℃特別報告書を読む
3	温暖化による被害予測②	外部性の概念・世代間の責任論
4	温暖化による被害予測③	共通だが差異ある責任
5	温暖化対策の国際的枠組み①	気候変動枠組条約
6	温暖化対策の国際的枠組み②	京都メカニズム
7	温暖化対策の国際的枠組み③	排出権取引
8	日本のエネルギー政策①	日本の温暖化対策はなぜ失敗してきたのか？
9	日本のエネルギー政策②	誰がどれだけ排出しているのか？
10	日本のエネルギー政策③	国内排出権取引市場と環境税
11	原発偏重の温暖化対策①	原発とは何か？
12	原発偏重の温暖化対策②	原発のコストとは？社会的費用論アプローチ
13	再生可能エネルギーの普及に向けて①	再生可能エネルギーと地域内経済循環
14	再生可能エネルギーの普及に向けて②	公共財の理論と発送電分離
15	本講義のまとめ	

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義の進め方は、パワーポイントによる解説となる。また、講義内で指示する参考書を読み進めることも併せて勧める。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①レポート（80%）、②リアクションペーパー（20%）で評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	プリント配布			
参考書	講義内で指示する			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

地方財政論・公共政策入門科目・地域経済論

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワーは講義前後と木曜日昼に設定する。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
農業経済学（農業・食料・農村地域をめぐる諸課題と展望）◆	榎平 龍宏	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

(2) 授業概要と目的

授業の内容として、特に理解を深めることを重視したい項目は以下のとおりである。①農業及び農業関連産業の特徴②わが国・特定地域の農業・農政を理解する上での国際比較の重要性③農業生産システムの特徴と農村地域社会の実態④農産物流通及びフードシステムの仕組みとアグリビジネスの展開⑤食料消費構造の特徴と新展開⑥世界の農業と食料需給⑦農産物貿易の経済理論と農業保護⑧食をめぐる豊かさとは何か⑨高齢化・少子化社会における食生活の特徴⑩現代社会と食文化―その接点と意義―⑪食をめぐる国際化の進展⑫現代社会における「食」をめぐる関心と利害関係、その関係の多様化と安定性の確保⑬食生活の広がり―需要者（消費者）と供給者（生産者）の接点と動機の多様化⑭農の現場と食の現場の距離の拡大と縮小という二極化の進展⑮農産物供給の安全性と持続性の確保⑯食をめぐるリスク管理を可能にするシステムの確立。

(3) 到達目標

- ①農業や農業関連産業の存立構造を規定する食料の需給問題と、それを反映した農業政策や農産物市場の特質、農産物貿易のあり方について、また農業に特徴的な生産要素である土地と労働について、さらに食品関連産業の発展と食品安全をめぐる諸課題について理解を深める。食料需給構造やフードシステムから農業及び農業関連産業の課題を見通せるようになる。
- ②農村地域社会の諸問題を知り、課題解決のための諸施策について理解を深める。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本講義の概要と目的
2	農業経済学の領域と課題	農業・農業関連産業とは何か、「農業・食料・農業問題」とは何か
3	国際的に見た農業の多様性	農業や食料需給の多様性理解、比較農業・政策論の重要性
4	農産物貿易の理論と実態	国際マクロ経済・貿易理論と農産物貿易の実態
5	各国の農業・食料政策（1）	先進国農業・食料政策、フードシステムと食品安全問題
6	各国の農業・食料政策（2）	新興国、発展途上国の農業・食料政策
7	食料の需要と供給（1）	食料需要の所得弾力性・価格弾力性
8	食料の需要と供給（2）	食料供給・農産物市場の不安定性
9	経済発展と農業・農村（1）	農業史分野の研究結果から
10	経済発展と農業・農村（2）	戦後の農業経済分析の研究結果から
11	農業・食料技術の新展開	農業・食料をめぐる技術進歩と今後のイノベーションの方向性
12	農業・農村組織の展開	「組織間関係」に着目して農業・農村の組織をみる
13	農業経営多角化の論理	「経営戦略」に着目して農業・農村をみる
14	アグリビジネスの展開	アグリビジネスの経営戦略とフードシステムの変貌
15	おわりに	持続可能な農業・農村へ向けた政策的課題

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントとプリント資料を併用して講義形式で進めていく。講義の終了時に感想や疑問をリアクションペーパー（「ひとことカード」）に記入してもらい、次の授業の始まりの際に主だった感想や質問に対してコメントを行うことにより、要点の振り返りと疑問を解消し、講義内容の定着を図る。毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験またはそれに変わるレポート（80%）、②「ひとことカード」への感想・疑問等の記入（20%）の合計点数により評価をする。定期試験やレポートの回答例は、補講等を通じて解説する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済政策、地方自治論、地方財政論、地域経済論、地域金融論、環境経済学などの公共政策分野の諸科目

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。講義内容は連続しているため、特別な理由なく欠席はしないこと。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域福祉論	中畑 充弘	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

1. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
2. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

地域福祉は、社会福祉における新しい考え方であり新しい福祉サービスシステムである。2000年に社会福祉法が制定された以降、社会福祉のメインストリームとして着目されている。本講義ではソーシャルワーク実践にかかわる社会福祉援助の理念・方法と地域自立生活を支援する基盤となるシステムや条件整備について視聴覚教材なども援用しながら学習する。ソーシャルサポートの機能とは、個人を孤立・疎外させることなく、信頼・愛情・見守りなどの情緒的サポートや、具体的な手段のサポートである社会資源の提供、情報の交換により人を支えるものである。生活上のニーズ（苦悩・困難）、人生の見通し・希望などの個人因子と、それをとりまく環境因子のどこに問題があるのかを究明しよりよい地域福祉を醸成・推進していく様々な取り組みを学んでいく。社会的孤立をなくし自己肯定感をもちながら誰かのために役立つことのできる社会、豊かな人間関係に囲まれた「しあわせ」を希求する学問である。

(3) 到達目標

- ①あくまで主体的な住民参加が原則であり、地域住民ができないことを公的サービスで支えていくという協業であることを理解する。
- ②地域内の声かけ・思い遣り・配慮・助け合いなどの交流を通じて豊かな人間関係を広げ醸成していく実践が身につくようになる。
- ③学生諸君も主体性ある一市民として、地域の担い手である自覚をもって欲しい。地域住民自身が地域の問題に対応できる力を養う。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	地域福祉の歴史的展開	戦前後 復興期から、現在の‘システム’としての地域福祉を考える
2	生活困窮者自立支援	生活困窮の状況と生活困窮者支援における地域福祉の役割を学ぶ
3	地域福祉の理念と考え方	社会福祉の目的である自立生活・地域自立生活支援のあり方を知る
4	地域福祉の主体と福祉教育	社会福祉協議会・学校教育・福祉政策の「協同実践」と地域の支え
5	行政組織と民間組織の役割	行政・社会福祉法人に加え登場する多様な組織を学ぶ cf. NPO 法人
6	コミュニティソーシャルワーク	コミュニティソーシャルワークの考え方と特徴、専門職の役割を学習する
7	住民参加の方法と意義	住民が主体的に地域社会や福祉行政に「参加」することの意義を学ぶ
8	ソーシャルサポートネットワーク	左記 ネットワークの概要とエコロジカルアプローチについて学ぶ
9	社会資源の活用と開発	社会資源（ハード/ソフト）の内容と福祉サービスの開発について知る
10	福祉ニーズの多様化と把握	福祉ニーズの把握方法、アウトリーチ(出向き)・インタビュー方法を学ぶ
11	地域トータルケアシステム	左記 システムと保健・医療・福祉・介護との連携ネットワークを知る
12	福祉サービスの評価方法	多様な評価の仕組みとシステム、「プログラム評価」について学ぶ
13	災害支援と地域福祉	対人援助・ソーシャルワーク・生活再建・地域復興との関係を学ぶ
14	地域福祉の欧米比較・影響	イギリスの公私関係やアメリカのソーシャルワークについて学ぶ
15	介護予防・生活支援事業	介護制度の概要と支え合い体制づくり、介護予防・自立支援を学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を展開していく。配布したレジュメプリントをベースとして適宜、板書・パワーポイントと視聴覚資料を図示、併用しながら授業を進めていく。本講義は、自身を取り巻く家族や地域または共同体に密接した事象、身近な環境における諸問題を扱うので随時、身近な事例や意見、建設的かつ双方向的な議論を求めることもある（全くもって難解なものではない）。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期テスト 50%
- ②授業中での課題 20%
- ③小レポート 20%
- ④授業への意欲的参加および平常点 10%

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	『地域福祉の理論と方法 第3版』	福祉臨床シリーズ編集委員会 編	弘文堂	2,700円
	『よくわかる地域福祉 第5版』	上野谷、山縣、松端 編	ミネルヴェ書房	2,376円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「地域」という連合符、例えば「一経済論」「一金融論」「一実習」は勿論であるが、とりわけ「公共政策入門」「生涯発達論」「キャリアデザイン論」「人間関係論」「大月学入門」「社会保障論」「行政学」「社会学」「健康論」「スポーツレクリエーション実習」は効果的。

(9) オフィスアワー・その他

日頃から、新聞（一般紙）の社会面、とりわけ「地方版」の記事を読み、福祉・保健・介護・医療などの諸問題について考えを巡らせておくとよい。授業の進度・内容は、受講生の構成（特別聴講生・市民の皆様の多少）により、若干の変更の可能性はある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
地域金融論（地域経済における資金循環と経済発展の課題）◆	槇平 龍宏	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる。

(2) 授業概要と目的

先進国、途上国を問わず地域開発は大きな課題であるが、時代によりその手法や役割は大きく変貌している。我が国における地域開発を支えるファイナンス（金融・財政）も、特にバブル期以降のこの20年間に大きな変化を続けている。「地方創生」が叫ばれ、多様な事業が展開する中で、これからの地域プロジェクトを支える金融・財政ファイナンスをどうデザインしていくかを考えることが本講義の目的である。

「地方創生」の論点や地域経済における金融の役割を整理し、我が国の地域開発の変遷をたどった上で、主な地域開発プロジェクトを金融の視点から再整理を行う。その後、この20年間で行われた金融システム及び地方財政の変革を概括し、今後の地域プロジェクトを考える上で参考となるこれまでの地域プロジェクトの資金調達等の事例及び主要トピックスについて整理・分析をする。

(3) 到達目標

- ①地域経済と資金循環に関する一般的な理論・知識を身につける。
- ②金融政策に関する基礎的知識と、地域経済における金融システムの役割について理解できるようになる。
- ③地域振興に関するプロジェクトを遂行する上で、地域金融システムが果たす役割と限界を認識する。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義内容ガイダンス
2	地域経済の基礎的理解	地方を取り巻く環境、国政の動き、地域経済循環
3	我が国の地域開発の変遷	外來型地域開発と内発的発展
4	我が国の金融システム	金融システムの基本構造、金融政策の基礎的理解
5	金融制度改革と地域金融	バブル期以降の金融制度改革の内容と地域への影響
6	地域金融機関と「借り手」	地域金融におけるリレーションシップ・バンキングの内容
7	政府系金融機関とは何か	政府系金融と民間金融の役割と関係
8	地方財政制度の変遷	地方財政危機の要因・課題と展望
9	地方財政制度改革	財政健全化、公会計制度、地方債
10	地域経済循環と地域金融	マクロバランス論、地域内再投資論、中小企業金融、農業金融
11	事例分析 (1)	大規模開発プロジェクト（鉄道、道路、空港等）
12	事例分析 (2)	第三セクター方式、地方公営企業
13	新しい地域金融の役割 (1)	地方創生、SRI、ESG 投資
14	新しい地域金融の役割 (2)	公益法人改革、地域活性化ファンド、マイクロファイナンス
15	新しい地域金融の役割 (3)	PFI、コンセッション／これからの地域金融の展望（まとめ）

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

パワーポイントとプリント資料を併用して講義形式で進めていく。講義終了後に感想や疑問をリアクション・ペーパー（「ひとことカード」）に記入してもらい、次の授業の始まりの際に主だった感想や質問に対してコメントを行うことにより、要点の振り返りと疑問を解消し、講義内容の定着を図る。毎回配布するプリント資料は穴埋め形式とし、重要な語句や解法などを記入することにより、知識の定着と自ら考える力を養う。

(6) 成績評価の方法と基準

①定期試験（80%）、②「ひとことカード」への感想・疑問等の記入内容（20%）の合計点数により評価をする。定期試験の回答例は、補講等を通じて解説する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経済政策、地方自治論、地方財政論、地域経済論、金融論 A・B

(9) オフィスアワー・その他

上記のスケジュールに従い講義を行うが、進捗状況や時事的な問題を取り扱うことによるスケジュールの前後や変更がありうる。講義内容は連続しているため、特別な理由なく欠席はしないこと。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
労働と法（働く前に知っておきたい労働のルール）◆	中野 宏典	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

法は、社会生活を営む上で不可欠のツールであり、法的な思考（いわゆるリーガルマインド）に親しんでおくことは、法律を直接扱う職に就く場合は無論のこと、そうでない場合にも、さまざまな課題解決という場面で大いに有用である。本講義は、社会人として特に関係が深い労働法の基本的な知識を学ぶとともに、労働法を題材として、リーガルマインドの基本を育み、今後社会に出たときに少しでも役立つような内容とする。

パワーポイント資料を用いた解説と学生からの発言・意見交換に重点を置く。特別な準備・予習を求めるものではないので、気軽に参加し、意見を交わして、自分の世界を広げていただきたい。授業の後半では、模擬労働審判なども行いたい。

(3) 到達目標

- ①労働三法（労働基準法、労働契約法及び労働組合法）を中心とした労働関係法規に関する基本的な知識・考え方を説明できる。
- ②実際の事例を題材に、現実の社会問題について、リーガルマインドの基本を意識しながら積極的に議論し、課題を解決できる。
- ③答えの分からない問題に対しても自分なりの筋道を立てて答えを導き、判断過程とともに説明できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	法とは何か	労働法関係の前提となる法や契約に関する基礎知識
2	憲法と労働関係	憲法における労働権の位置付けと労働条件の基本原則
3	就職活動と労働法	採用、内定、試用期間を中心とした労働契約開始の場面
4	就業規則	就業規則の意義・効力と、作成や変更に関する規制
5	賃金	賃金支払いの諸原則と最低賃金制度
6	労働時間・休暇	労働時間の原則と例外、休暇に関する諸規制
7	安全衛生と労働災害	労災保険法を中心に労働災害に対する補償制度を概観
8	職場内トラブル	セクハラ、パワハラなど、職場内で生じるトラブル
9	企業秩序と懲戒	懲戒に関する基本事項、人事にも若干触れる
10	労働契約の終了	解雇に関する基本事項と解雇権濫用法理
11	アルバイトと労働法	期間雇用、パートタイム労働及び労働者派遣の概観
12	労働紛争解決	労働委員会による紛争調整と司法的解決手続、とりわけ労働審判
13	模擬労働審判	模擬労働審判の実施
14	労働組合と不当労働行為	労働三権の意義と労働組合、不当労働行為
15	団体交渉と団体行動	団体交渉の意義と具体的内容

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

毎回、テーマに沿ったレジュメを配布し、パワーポイント資料を用いて基本的知識の説明を行う。裁判例や実務上の具体例を挙げて、問題の所在や解決の方法をイメージしやすいようにする。できる限り毎回「今日の設例」を設定し、基本的知識を踏まえつつ双方向型で討議を行う。授業の最後に、出欠確認も兼ねて、簡単な感想を提出してもらおう。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①授業における積極性及び感想（40%）、②定期試験に代わる期末レポート（60%）の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	労働法（Next教科書シリーズ）第2版	新谷真人（編）	弘文堂	2,200円
参考書	有斐閣アルマ『ベーシック労働法』第9版	浜村彰弘ほか（著）	有斐閣	2,090円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

法学A・B

(9) オフィスアワー・その他

決まったオフィスアワーは設けませんが、必要があれば時間を設けます（要事前予約）。遠慮なくご相談ください。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
行政学（行政の仕組みを理解する）	山岸 絵美理	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本講義では、現代における行政の役割やその意義について学んでいく。「行政」とは、私たちの生活にとっても身近でありながら、日常的に意識する機会があまりないのが実情である。しかし、今日の社会の多様化・複雑化といった変化は、行政機能を左右するだけでなく、人々の生活に大きな影響を与えている。そこで本講義では、身近な行政活動を取り上げながら行政の機能や役割について解説することから始め、行政学の基本的な考え方、枠組みを学ぶ。それらをふまえ、具体的な政府の動態や行政の課題について検討し、理解を深める。行政活動を決定する統治の方法としてガバメントに着目し、地方自治や行政の統制、協働による行政マネジメントのあり方についても講義を展開していく。

(3) 到達目標

- ① 現代の統治の仕組み（三権分立）から行政の役割について述べることができる。
- ② 行政学の基礎的な理論を述べることができる。
- ③ 行政学の理論を現実の問題に応用することができる。
- ④ 今後の行政と国民・住民の関係をふまえ、これからの行政経営のあり方を論じることができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	行政とは何か	行政学で学ぶ行政の内容や特徴について
2	行政サービスの歴史①	行政サービスの歴史的展開とその内容の変化
3	行政サービスの歴史②	行政機能の肥大化と福祉国家
4	アメリカ行政学の展開①	アメリカ行政学理論（行政理論の流れ①）
5	アメリカ行政学の展開②	アメリカ行政学理論（行政理論の流れ②）
6	アメリカ行政学の展開③	アメリカ行政学理論（組織理論の流れ）
7	官僚制をめぐる論点	官僚制の基本的構造や学説について
8	日本の議院内閣制について①	議院内閣制の仕組みと日本の議院内閣制
9	日本の議院内閣制について②	日本の議院内閣制の課題
10	日本の行政組織について①	中央省庁の仕組みやその特徴
11	日本の行政組織について②	中央省庁等の改革の意義と課題について
12	日本の公務員制度①	公務員制度の仕組みについて
13	日本の公務員制度②	現代公務員制度の課題について
14	財政の役割について	予算制度の仕組みと現在の予算の分析について
15	地方行政の仕組みについて	地域の行政の役割について

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には講義形式で授業を進めていき（パワーポイントやレジュメを併用）、具体的事例を示した資料として新聞記事等を配布する。また講義内容を踏まえた理解度確認のためのコメントシートを記入してもらい、コメントシート回収後は、解答の解説等を行う。予習は必要ないが、適宜、新聞や雑誌などを使用し、政治、行政に関する具体的事柄や課題について紹介していくので、積極的に行政活動の意味や内容を理解するよう努めること。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期テスト（70%）、② 授業での課題（20%）、③授業貢献度（10%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	『はじめての行政学』	伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔	有斐閣	2,090 円
	配布プリント			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

1年生は「政治学」を履修することを勧める。関連科目：地方自治論。

(9) オフィスアワー・その他

オフィスアワー：原則として毎週火曜日。編入志望者、公務員試験受験希望者は履修を勧める。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
人間関係論（企業内で形成される多様な人間関係）◆	上笹 恵	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

企業などの組織内で形成される、多様で複雑な人間関係や仕事の進め方についてみていく。最初に、経営学の原点である科学的管理法が確立するなかで発生した労働疎外の問題を取り上げる。そして、労働疎外を緩和、解消するための新しい枠組みとして登場した、人間関係論の理論の枠組みを理解する。それらをふまえ、組織内で形成される非公式組織や同調と逸脱、集団の凝集性を高める手法などを検討する。また、従業員の動機付けに関するモデルを取り上げ、彼らの有効な管理の方向性を見出す。

講義では抽象度の高い理論を紹介するだけでなく、可能な限り多くの事例を取り上げ、職場で役立つ物の見方を提示する。全体の調和を保って組織を運営するために、私たち一人ひとりに何ができるのか、受講生とともに考えたい。

(3) 到達目標

- ① 標準化や機械化が過度に進んだ職場で発生する労働疎外の現状について説明できる。
- ② 企業が従業員の意欲を高め、まとまりの良い組織をつくるための方法論を修得する。
- ③ 組織内で発生しがちな対立や葛藤について、建設的な緩和・解消の方法を提案できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	はじめに	講義の進め方と全体像の紹介
2	科学的管理論の展開①	経営管理の科学化、テーラーの科学的管理法、課業管理
3	科学的管理法の展開②	フォードの総合同時的管理論、科学的管理の功罪
4	人間関係論の芽生え	ホーソン工場実験、社会的欲求の充足
5	集団力学①	公式組織と非公式組織、集団の形成過程、集団凝集性
6	集団力学②	同調と逸脱、小集団の活用、プロジェクトチーム、会議と委員会
7	モチベーション①	満足と組織の成果、ハーズバーグの2要因説、公平説
8	モチベーション②	強化（学習）説、ポーターらの期待説、内発的動機づけ
9	組織ストレス①	組織ストレスのモデル、ストレスの諸相、バーンアウト
10	組織ストレス②	モデレーター要因の効用、対処行動、社会的支持
11	ジョブ・デザイン①	労働疎外と労働の人間化、職務充実・職務拡大、ハックマンモデル
12	ジョブ・デザイン②	ジョブ・デザインと組織との適合性、情報化とジョブ・デザイン
13	対人葛藤①	職場における人間関係、葛藤関係の効用、対人葛藤の動態
14	対人葛藤②	官僚制化と葛藤の関係、葛藤管理の実際、シュミットモデル
15	組織で働くために	ゆらぎと調和、組織における自由と規律

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

伝統的な理論を中心に、黒板を使って授業を進める。また、新しい理論や研究の成果も紹介する。さらに、組織内で構成員同士の協力によって生じる成果や問題に関して、受講生からは経験したことなどを念頭に自発的に情報提供してもらう時間をつくる。それを材料に全員で組織活動の本質を探る。理論だけでは把握できない、多様な人間関係について自分なりの哲学を持てるように導いていく。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（90%）、② 授業への貢献度（10%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	使用せず			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

経営組織論、人的資源管理論と関連付けて学ぶと理解が深まる。

(9) オフィスアワー・その他

授業時間外の質問にはオフィスアワー等で応じる。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
企業法務論（商法一般、消費者取引）	山崎 恭代	2	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している（専門的な知識の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

今日の日本経済の発展が、企業活動によってもたらされていることは、疑う余地がない。そして、その企業活動から生ずる生活関係を規制対象とする法律が商法である。商法には、「商法」以外にも、会社法、手形・小切手法、特定商取引法、消費者契約法など、広く、ビジネスに関するルールを含む。

本講義では、企業関係を規律する基本法である商法（商法総則・商行為）、企業取引の決済の手段として利用されている小切手、旧統一教会の被害者救済のために成立した改正消費者契約法や、特定商取引法などで規定されている、悪質業者から消費者を保護するための各制度や、事業者が守るべき法的ルールについて、解説を行う。

(3) 到達目標

- ①小切手の基本的な仕組みについて説明できる。
- ②契約を締結する際の基本的なルールを説明できる。
- ③悪質商法の被害にあった場合に、適切に対処することができる。
- ④商業登記、商号、商業使用人、商業帳簿の仕組みを説明できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法の説明等
2	商法総則 (1)	商人と商行為、小切手の概要、消費者取引①（訪問販売）を学ぶ
3	商法総則 (2)	商業登記、消費者取引②（ネガティブオプション①）を学ぶ
4	商法総則 (3)	商号、消費者取引③（ネガティブオプション②）を学ぶ
5	商法総則 (4)	商業帳簿、消費者取引④（電話勧誘販売）を学ぶ
6	商法総則 (5)	商業使用人、消費者取引⑤（クーリングオフ①）を学ぶ
7	商法総則 (6)	代理商、消費者取引⑥（クーリングオフ②）を学ぶ
8	商行為 (1)	商行為、消費者取引⑦（クーリングオフ③）を学ぶ
9	商行為 (2)	商事売買、消費者取引⑧（クーリングオフ④）を学ぶ
10	商行為 (3)	企業取引の補助者①、消費者取引⑨（訪問購入①）を学ぶ
11	商行為 (4)	企業取引の補助者②、消費者取引⑩（訪問購入②）を学ぶ
12	商行為 (5)	運送営業、消費者取引⑪（事業者の規制）を学ぶ
13	商行為 (6)	倉庫営業等、消費者取引⑫（通信販売①）を学ぶ
14	商行為 (7)	交互計算、消費者取引⑬（通信販売②）を学ぶ
15	商行為 (8)	匿名組合、消費者取引⑭（消費者契約法）を学ぶ

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

基本的には、講義形式で授業を進めていく。配付した印刷物の空欄に用語を記入しながら、学習を進める。毎回、授業時間の数分を利用して、小切手の振出問題、理解度を確保するための復習問題を、2～3問程度出題する（授業内課題）。フィードバックとして、次回の授業で問題の解説を行うか、または、チームで解説を送信する。特殊な用語や言い回しが多いため、事前の予習よりも、授業後の復習に重点をおいた学習をすること。授業で解説した教科書の該当箇所、板書をまとめたノート、配布資料を読んで、復習を行うこと。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験（65%）、②授業内課題（35%）の合計点数により評価を行う。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	現代商法入門〔第11版〕	近藤光男〔編〕	有斐閣	2,200円
参考書				

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

授業後、教室で質問を受け付ける。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
日本文化講義B(文学作品・雑誌記事を中心に日本文化を学ぶ)	渡邊 浩史	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準(ディプロマ・ポリシー)との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している(導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。
3. 経済、公共政策、経営、社会文化のうち、少なくとも1つについて基礎的な知識を修得している(専門的な知識の修得)。

(2) 授業概要と目的

日本の近現代文学作品や雑誌等で紹介された日本文化に関する記事を中心に、そこから日本文化について様々な知識を習得するとともに、グループワークを通じてより深い理解につなげていく。講義の進め方としては、前期の日本文化講義Aとはほぼ同じ進め方で行う。第1に日本近現代文学作品(小説・詩など)や雑誌等で紹介された様々な日本文化に関する内容を学んでもらう。次に、そこで見出された問題点についてさらに深めていくために、受講者がディスカッションを通してより深い理解につなげていく。本講義を通して、日本近現代文学作品分に生起する様々な日本の文化に関心をもち、今後自分たちが選択する専門分野の重要性について理解してもらいたいことも目的である。

(3) 到達目標

- ① 日本近現代文学作品の読解能力のスキルを学ぶ。
- ② グループワークでのディスカッションを通して、作品に現出する日本文化の背景を学び、より深い(解釈)の獲得を目指す。
- ③ 様々な日本文化に触れることを通して、専門分野で研究する重要性について理解できるようになる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義内容の説明
2	文化とは何か	文化の定義
3	作品読解による日本文化①	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
4	作品読解による日本文化①	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
5	作品読解による日本文化②	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
6	作品読解による日本文化③	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
7	作品読解による日本文化④	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
8	作品読解による日本文化⑤	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
9	作品読解による日本文化⑥	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
10	作品読解による日本文化⑦	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
11	作品読解による日本文化⑧	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
12	作品読解による日本文化⑨	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
13	作品読解による日本文化⑩	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
14	作品読解による日本文化⑪	日本文化に関する話題を扱った作品や雑誌記事等を用いての講義・グループワーク
15	総括	全体のまとめ

(5) 授業の進め方と方法(授業時間外の学習)

授業は教員が提示する幾つかの日本文化の紹介・説明を受けた学生が、より深い理解度に到達するためにグループワークを行うという形式で進めていく。グループワークによって高められた理解度の成果については、毎回行うコメントペーパーによって確認する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 授業内課題(60%)、② 定期試験に代わるレポート(40%)の合計点により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目(他の科目との前後のつながり)

社会文化入門C1や日本文化講義Aなど。その他「社会文化分野」に関する講義の積極的な履修が望ましい。

(9) オフィスアワー・その他

講義に関する質問はオフィスアワーや Teams のチャット等でも受け付ける。授業の進度・内容は、授業の状況により若干の変更の可能性はある。

科目名	旧科目名	教員名	年次	授業期間	単位
アジア文化講義B（海域アジアのなかの日本）	日本史A	松岡 昌和	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

現在は過去の積み重ねの上であり、歴史を知ることが現代の世界のなりたちを知る上で極めて重要である。一方で、歴史を見る際に現代の主権国家を過去に投影してしまう危険もある。本科目では、国民、国境、一元化された政府といった現代国家のかたちを前提とせず、広く海域アジアやグローバル世界のなかに日本列島を位置づけてその歴史について考えていきたい。それにより、「日本」の成り立ちの多様性を知り、歴史という営みを通じて批判的な思考を身につけることを目標とする。本科目では、主に古代から近世までの時代を扱い、一部近代についても触れる。

(3) 到達目標

- ① 歴史を学ぶことで長期的で広い視野を身につける。
- ② 異なる世界を知ることにより異文化に対する理解を深めていく。
- ③ 歴史上の資料や記録を読み解いていくことで、情報に対するリテラシーを身につける。
- ④ さまざまな歴史観・世界観を知ることにより批判的な思考をできるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	
2	海域アジア概論1	「日本」とは何か
3	海域アジア概論2	海域世界から日本を見る
4	通史編1（～9世紀）	律令国家と東アジア
5	通史編2（10～12世紀）	国交なき通商の拡大
6	特別編1	国風文化は「国風」か～唐物の歴史
7	通史編3（13～14世紀）	モンゴル帝国と日本
8	通史編4（15～16世紀）	倭寇の時代
9	通史編5（17世紀）	「鎖国」という外交
10	特別編2	日本社会は「無宗教」か
11	通史編6（18世紀I）	互市システムと鎖国
12	通史編7（18世紀II）	東アジア・東南アジアの「伝統社会」
13	通史編8（19世紀）	近代世界と東アジア
14	特別編3	近代化と「伝統の創造」
15	まとめ	

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

講義形式で行う。毎回資料を配布し、スライドを使用して解説を行う。教科書は使用しない。必要に応じて映像も用いる。高等学校レベルの世界史・日本史の知識については、各自必要に応じて確認すること。試験では、知識の暗記ではなく、知識をどのように組み立てて議論を展開するかといった点を評価する。参考書は下記のほか、講義の際に適宜紹介する。

(6) 成績評価の方法と基準

- ① 定期試験（100%）

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	『「近世」としての「東アジア近代」』	桃木至朗	かみがわ出版	1,980円
参考書	『グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育』	秋田茂・桃木至朗編	大阪大学出版会	2,530円
参考書	『グローバルヒストリーと戦争』	秋田茂・桃木至朗編	大阪大学出版会	2,530円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

アジア文化講義A／言語と文化、国際関係論A／日本史B、東洋史、世界史

(9) オフィスアワー・その他

原則として、毎週月曜日昼休みをオフィスアワーとして設定する。その他の曜日・時間については要連絡。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
国際関係論B (異文化間衝突と紛争予防の学習)	荒 哲	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準 (ディプロマ・ポリシー) との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している (導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得)。

(2) 授業概要と目的

この授業では、16世紀の終わり頃から始まったヨーロッパの大航海時代により欧米諸国の植民地支配を受けたアジア諸国における植民地史の学習をする。その後、19世紀の後半から顕著となった日本帝国主義の歴史を主に学習する。同時に欧米諸国による植民地支配の歴史と比較検討しつつ、明治維新以降、日本がいかにかして膨張主義あるいは領土拡張主義的外交を模索しながら、なぜ帝国主義の道を歩まざるを得なかったのか、その要因を探る。そして、最終的にアジア太平洋戦争という未曾有の惨禍を招いた要因を探りながら、複雑な国際関係の中で、今後日本がいかにかして暴力の連鎖に依らない平和へのビジョンを構築していくかを考えていく。

(3) 到達目標

中学校の社会並びに高校の日本史や世界史の授業において深く学ぶ機会が少なかったと思われる19世紀以降のアジアにおける欧米諸国による植民地史並びに日本帝国主義の歴史について基礎的な知識を習得する。アジア太平洋戦争がもたらした暴力と惨禍についても詳細に認識できるようにする。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	国際関係という言葉の意味について	オリエンテーションなど
2	大航海時代の始まり	16世紀後半のヨーロッパの歴史と国際関係の発端について
3	「近代化」の名の下での支配	キリスト教の布教と植民地支配の始まり
4	織田信長とキリスト教	日本におけるキリスト教布教とその限界
5	イスラム教とキリスト教との相克	インドネシアにおけるイスラム教 フィリピンにおけるキリスト教
6	日本の近代化の開始	鎖国と開国をめぐる幕府の苦悩と外敵からの防衛
7	日本の浪人たちによる大陸進出	浪人たちとアジアナショナリストたちとの交流
8	日清戦争と日露戦争	日本の領土拡張と膨張主義の始まり並びに欧米帝国主義との相克
9	朝鮮併合と台湾の植民地化	朝鮮半島のナショナリズムと台湾との違い
10	日本の「南方」への進出	日清戦争以降の日本の南方への眼差し
11	満洲国の成立と日中戦争	全体主義のもとでの日本、中国への侵略
12	アジア太平洋戦争と大東亜共栄圏思想	戦争遂行のための資源の供給源としての東南アジアへの進出、日本占領下の東南アジア
13	冷戦の始まりと国際連合	冷戦の起源、冷戦下のアジアについて
14	冷戦後のアジアと欧米諸国	「ベルリンの壁」の崩壊後の世界について。アジアと欧米諸国の現状とを比較する
15	新しい国際秩序を求めて	ソビエト連邦崩壊後の社会主義体制のいく末と米中露を中心とする国際政治

(5) 授業の進め方と方法 (授業時間外の学習)

講義では教師が作成したパワーポイントに沿った授業を展開する。授業終了直前の15分前に各回の授業内容についての振り返りシートを作成し提出する。時折、映像を鑑賞しながら講義内容を理解できるように工夫をしながら授業を展開していく。授業展開によってはグループ学習を行い、学習した内容を他のクラスメートに報告する為のプレゼンテーションを行うことを計画している。

(6) 成績評価の方法と基準

期末テスト70%、授業ごとに提出される振り返りシートの内容20%、授業貢献度10%とする。ただし、グループ学習によるプレゼンテーションが行われた場合は、授業貢献度の10%をプレゼンテーション評価に充当する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
参考書	国際政治史	小川浩之編著	有斐閣 2018年	2,530円
	危機の20年	EHカー (原 彬久 翻訳)	岩波文庫 2011年	1,452円
	想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン	書籍工房早川2007年	2,200円

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目 (他の科目との前後のつながり)

アジア文化講義

9) オフィスアワー・その他

月曜日 午後2時から午後3時までの間、第8研究室にて。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
社会学B (社会調査の方法論)	喜多下 悠貴	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

本授業では、社会学において用いられることの多いデータ分析の基本的な方法論を学ぶ。社会学には「価値自由」という概念があるが、自らが持っている価値観に自覚的になり、その価値観から距離をとったうえで事実を冷静に認識する態度が求められる。こうした態度を支えるのが社会について知るための様々な方法論である。事実を把握するための具体的方法を学ぶことは、実生活でもデータや統計に惑わされない力を育むほか、将来、仕事で様々なデータを扱い、分析を行う際の勘所をつかむことにも寄与するだろう。本授業では社会学で蓄積された様々な方法論を概説するとともに、体験的な活動を取り入れて理解を深めることを目的とする。

(3) 到達目標

- ①社会のなかでどのように社会調査がいかされているのかを説明できる。
- ②先行研究の整理、問い・仮説の検討、データの収集・分析という社会調査の一連の流れを説明できる。
- ③質的調査・量的調査の具体的技法を習得できる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業計画の説明
2	社会学と社会調査（1）	世の中のデータを疑ってみる
3	社会学と社会調査（2）	社会におけるデータの生産、流通、活用
4	社会学と社会調査（3）	質的調査と量的調査
5	質的調査法（1）	質的調査の特徴・インタビュー調査の準備
6	質的調査法（2）	インタビュー調査の体験
7	質的調査法（3）	インタビュー調査の体験
8	中間まとめ	中間まとめ
9	量的調査法（1）	量的調査の特徴・アンケート調査の実例
10	量的調査法（2）	調査仮説の設定
11	量的調査法（3）	調査仮説の設定・アンケート調査の作成
12	量的調査法（4）	アンケート調査の作成
13	量的調査法（5）	アンケート調査の分析
14	量的調査法（5）	アンケート調査の分析
15	まとめ	授業のまとめと振り返り

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業前半は主にパワーポイント資料などを用いた講義形式によって授業を進める。実際に質的調査、量的調査それぞれの調査手法を体験する際はグループワークを取り入れる。授業冒頭では、前回授業に対する履修者からのコメントに対してフィードバックを行う等で前回授業を復習する。配布資料などを授業までに熟読することを授業の予習とし、授業後に課す感想や課題の提出を復習とする。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験に代わるレポート（70%）、② 授業内の活動への取り組み状況（30%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

「社会学A」の履修を勧める。

(9) オフィスアワー・その他

授業の内容、進度は学生の人数や、学生からの要望等に応じて若干変更する可能性がある。

科目名	教員名	年次	授業期間	単位
教育学B（様々な教育の形）	喜多下 悠貴	1	後期	2

科目名に◆印のある科目は「実務経験のある教員による授業科目」

(1) この授業と学位授与基準（ディプロマ・ポリシー）との関連

2. 広い範囲にわたる教養を修得している（導入科目、教養演習、専門入門科目等の履修による「自己教育力」の修得）。
4. 地域や社会に発生している問題を、一般教養や専門的な基礎知識に基づいて明示し、その解決策を論理的に提示できる（「地域貢献力」の修得、「卒業レポート」の作成と「問題解決力」の修得）。

(2) 授業概要と目的

私たちが「教育」を想像する時、その多くは自身が受けてきた学校教育、特に小学校以降のそれを想像するだろう。他方で、「教育」の形やそれが行われる場は、いわゆる「学校」における教育に限定されるものではない。本授業では、教育に関する幅広いあり方、考え方について視野を広げて考えられるようになることを目的として、学校教育に関する相対的な見方を提供する理論に触れるほか、環境を通して行われる幼児期の学びや、「状況的学習」と呼ばれる、場への参加による学習のあり方について理解を深めることを目的とする。こうした理論的理解を通して、自身の学習環境や学び方を自ら構成できる、自律的な学習者の育成を目指す。

(3) 到達目標

- ①学校教育という「当たり前」を問い直すことを通して、現代社会における教育を俯瞰的に捉えられるようになる。
- ②現代における教育現象を多角的な視点から捉えることができるようになる。
- ③環境や場を通じた学びに関する主要な考え方について説明することができる。

(4) 授業計画

	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業計画の説明
2	学校教育を問い直す（1）	学校教育における学びの特質と課題
3	学校教育を問い直す（2）	学校化社会論／脱学校論
4	環境を通じた学び（1）	幼児期の教育の特徴
5	環境を通じた学び（2）	幼児期の教育の特徴
6	環境を通じた学び（3）	保育者の専門性と処遇
7	環境を通じた学び（4）	保育者の専門性と処遇
8	中間まとめ	中間まとめ
9	話題提供（1）	時事的課題に関する話題提供とディスカッション
10	話題提供（2）	時事的課題に関する話題提供とディスカッション
11	場への参加を通じた学び（1）	状況的学習論
12	場への参加を通じた学び（2）	状況的学習論
13	場への参加を通じた学び（3）	越境学習論
14	場への参加を通じた学び（4）	越境学習論
15	まとめ	授業のまとめと振り返り

(5) 授業の進め方と方法（授業時間外の学習）

授業では講義形式に加えて、参考文献の輪読や、履修者による「話題提供」とディスカッションを行うことを想定している。参考文献の輪読や話題提供は、学生が主体となり、個人あるいはグループでテーマに関するレジュメの作成、発表を行い、その後履修者全員でディスカッションを行う。授業時間外の学習としては上記のための情報収集や予習を求め、配布資料等において復習を求める。授業後に課す感想や課題の提出を復習とし、次回授業冒頭で、履修者からのコメントに対してフィードバックを行う。

(6) 成績評価の方法と基準

- ①定期試験に代わるレポート（65%）、②授業内の活動への取り組み状況（35%）の合計点数により評価する。

(7) 使用書

区分	書名	著者名	出版社	税込価格
教科書	特になし			
参考書	授業内指示			

(8) 関連科目・履修することが望ましい科目（他の科目との前後のつながり）

特になし

(9) オフィスアワー・その他

授業の内容、進度は学生の人数や、学生からの要望等に応じて若干変更する可能性がある。

大月市立大月短期大学

〒401-0012 大月市御太刀 1-16-2

TEL 0554 (22) 5611

FAX 0554 (22) 5613

<https://www.ohtsuki.ac.jp/>

学籍番号

氏 名
